



人権教育学習指導案集

～平成29年度の実践～

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課

刊行にあたって

「人権教育学習指導案集～平成29年度の実践～」は、平成29年度に文部科学省・埼玉県教育委員会の委託を受けた人権教育総合推進地域及び人権教育研究指定校と、県内で優れた実践をされている学校の人権教育学習指導案をもとに当課が編集したものです。

この学習指導案集は、学習指導案提供校において研究主題や人権教育上の課題を解決するために、各地域や学校の実態を踏まえ具体的な授業実践を通して取り組まれた成果です。人権に関する知的理解を深めるとともに、児童生徒一人一人に実践的な態度や行動に結びつく人権感覚を身に付けさせるために、人権教育の指導方法を工夫・改善した実践を掲載しております。

当課が作成した「人権感覚育成プログラム(学校教育編)」(平成20年3月)、「人権感覚育成プログラム(社会教育編)」(平成21年3月)、「人権教育資料～指導実践の手引～」(平成22年3月)、「人権感覚育成プログラム増補版(学校教育編)」(平成25年3月)につきましては、各学校の御理解と御協力により、多くの学校で活用していただいております。各学校におかれましては、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等で、人権教育の視点に基づいた授業を実践する際に本書と併せて活用し、学校の実態に応じて人権教育を積極的に推進していただきますことを期待しております。

結びに、本書の刊行にあたり、学習指導案を御提供いただきました各学校及び関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課長
吉野 雅彦

人権教育学習指導案の提供校

小学校	伊奈町立南小学校 飯能市立富士見小学校 横瀬町立横瀬小学校 杉戸町立杉戸第二小学校
中学校	伊奈町立南中学校 横瀬町立横瀬中学校 和光市立第二中学校
高等学校	県立八潮南高等学校

目 次

「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について	1
学習指導案の記述例と留意点	2
1 小学校第1学年 道徳科学習指導案 主題名 「ともだちとなかよく」	4
2 小学校第4学年 音楽科学習指導案 題材名 「旋律の重なりを感じて表現しよう」	8
3 小学校第5学年 道徳科学習指導案 主題名 「誠実に生きる」	13
4 小学校第6学年 算数科学習指導案 単元名 「速さの表し方を考えよう」	18
5 小学校特別支援学級 道徳科学習指導案 主題名 「ともだちのよいところを見つけよう」	23
6 中学校第1学年 保健体育科学習指導案 単元名 心身機能の発達と心の健康「ストレス対処と心の健康」	30
7 中学校第2学年 道徳学習指導案 主題名 「優れた伝統や文化の継承」	34
8 中学校第3学年 英語科学習指導案 単元名 「Program7 "What Is The Most Important Thing To You?"」	37
9 中学校特別支援学級 教科別の指導「数学」学習指導案 題材名 「身近な物の長さを比べてみよう」	42
10 高等学校第2学年 公民科学習指導案 単元名 「科学技術の発達と私たちの生命」	47

「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について

学習指導案は「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容項目を設け、次のとおり作成しています。

<p>人権教育上のねらい</p>	<p>学校教育目標や人権教育目標を達成するために、各教科等において人権教育を推進していく上で、<u>人権課題別に各単元や一単位時間の中で目指すこと。</u></p> <p>() 内に人権課題を明示する。 例(普遍的な人権課題「生命尊重」) (個別の人権課題「障害のある人」)</p>
<p>人権教育上の視点</p>	<p>「人権教育上のねらい」の達成を目指し「法の下での平等」、「個人の尊重」といった人権一般の普遍的な課題に対する取組や具体的な個別の人権課題に対する取組の中で、<u>児童生徒に身に付けさせたい知識、価値・態度、技能のこと。</u></p> <p>【知識】<例> 各人権課題に関する正しい知識 情報を的確に収集し、合理的に理解し、活用する力 豊かな感性や想像力、共感的に理解する力</p> <p>【価値・態度】<例> 人間としての尊厳や自尊感情を大切にする態度 異なる文化を受容したり、違いを認めたりする態度 正義と公正を尊ぶ態度 課題解決に向けた意欲・実践的な態度</p> <p>【技能】<例> 非攻撃的自己主張の技能 コミュニケーションの技能 人間関係を調整する技能 解決に向けた実践力やそのための技能</p>
<p>人権教育上の配慮</p>	<p>「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を身に付けさせるための<u>教師による具体的な手立て(指示、説明、資料提示など)のこと。</u>具体的な手立てを「 」で明示し、記入する。 <u>「わかりやすくゆっくり話す」や「友達の話をよく聞く」等の学習一般の配慮事項を記入するものではない。</u></p>

学習指導案の記述例と留意点（「道徳学習指導案の例」）

道徳学習指導案			
1	主題名	
2	資料名	
3	主題設定の理由	(1) ねらいとする道徳的価値について (2) 児童生徒の実態について (3) 資料について	
4	ねらい。	
5	人権教育上のねらい（個別の人権課題「子供」）	将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自 他を尊重する精神を養う。	
6	人権教育上の視点	(1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利に ついて知識をもつとともに、いじめなど身の周りの問題の 不当性を理解する。 (知識) (2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション の能力を高めることができる。 (技能)	
7	展 開	人権教育上の配慮	
	段階	学習活動 主な発問	予想される児童生徒の反応 ・ 指導上の留意点
	1
	2 身の回りの問題に関す る現状を認識させるた め、「条約」と「いじめ 発生件数」の資料を提示 する。 (知識)
	3
	4 相互尊重のコミュニケ ーションスタイルを学 ばせるため、アサーティ ブトレーニングを取り 入れる。 (技能)
	5
8	評価の観点		

ポイント 1

1 }
2 }
3 } ポイント 1
4 }
7 }
8 }

ポイント 2
ポイント 3

ポイント 2
ポイント 4

ポイント 2
ポイント 5

ポイント 5

ポイント 5

人権教育上のねらい }
人権教育上の視点 } ポイント 6
人権教育上の配慮 }

- ・ポイント１・・・学習指導案は、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間の様式を原則とし、学習指導要領を基に記述する。
指導案様式は、埼玉県教育委員会の刊行物を参照。

- ・ポイント２・・・学習指導案に「人権教育上のねらい・視点・配慮」の項目を設けて記述する。

5 人権教育上のねらい()の人権課題「 」)……()内に人権課題を明記する。
6 人権教育上の視点
人権教育上の配慮

- ・ポイント３・・・本単元(本時)で解決を目指す人権課題を「人権教育上のねらい」に明示する。

(個別の人権課題「子供」)

将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。

記述する際は、「～を養う」や「～ができるようになる」などといった表記となる。

(普遍的な人権課題の内容例)

世界人権宣言や日本国憲法に示されているようなもの(「法の下での平等」「個人の尊重」など)や、「人権感覚育成のための視点」に示してある9つの視点など。

(個別の人権課題の内容例)

埼玉県人権教育実施方針に示されているもの(「女性」「子供」「高齢者」「障害のある人」「同和問題」「外国人」「HIV感染者等」「犯罪被害者やその家族」「アイヌの人々」「インターネットによる人権侵害」「北朝鮮当局による拉致問題」「災害時における人権への配慮」「様々な人権問題(刑を終えて出所した人、性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ、ホームレスの人権、プライバシーの侵害、その他)」)

- ・ポイント４・・・「人権教育上のねらい」に明示した人権課題を解決するために必要な「知識」、「価値・態度」、「技能」を「人権教育上の視点」として記述する。

- (1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識をもつとともに、いじめなど身の周りにおける人権問題の不当性を理解する。(知識)
(2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。(技能)

記述する際は、「～を理解する」や「～しようとする」、「～できる」などといった表記となる。

- ・ポイント５・・・「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を本時の展開の中で身に付けさせるための具体的な手立てを「人権教育上の配慮」として記述する。

身の回りの問題に関する現状を認識させるため、「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示する。(知識)
相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせるため、アサーティブトレーニングを取り入れる。(技能)

記述する際は、「～を活用する」や「～を促す」などといった表記となる。

- ・ポイント６・・・「人権教育上のねらい・視点・配慮」の整合がとれていること。
本時で扱う人権課題の解決に必要な知識、価値・態度、技能が身に付くような具体的な手立てがなされていることがはっきりと示されていることを確認する。

小学校第1学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 ともだちとなかよく 内容項目[B 友情、信頼]
- 2 ねらい 相手の気持ちになって、友達と仲よくしていこうとする心情を育てる。
教材名 「二わの小とり」 (出典:「みんなのどうとく埼玉県版1年」学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容項目[B 友情、信頼]は、「友達と仲よくし、助け合うこと」をねらいとしている。この項目は、第3学年及び第4学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」へと発展していく。

友情とは、共感や信頼の情を持ち肯定し合うことで、友達を信頼して助け合おうとする心をもつことであると考えられる。友達はより豊かに楽しく生きるために大切な存在である。友達と遊んだり勉強したりして一緒に活動することにより、喜びや楽しみを得ることができる。そしてその中で、互いのよさを理解したり頑張りや認めたりするなど、日常生活の様々な場面において、相手の気持ちになって助け合ったり協力し合ったり励まし合ったり、信頼関係を育てることが大切である。そこで、友達の立場や物事を考えた言動をすることの大切さに気付かせ、友達と仲よく互いに助け合おうとする心情を育めるようにしたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況及び実態について

入学当初は、同じ幼稚園・保育所出身同士の友達と遊ぶことが多かったので、学級としては、席替えをして班のメンバーを替えることや当番・係活動などの学級活動を通して多くの子と関わりをもてるように指導してきた。今入学して7ヶ月が経ち、友達の輪が広くなり色々な子と遊ぶようになった。しかしその反面、楽しくなり過ぎて友達の気持ちを考えずに行動してしまったり、些細なことでも喧嘩をしてしまったり友達を傷つけてしまったりすることが増えてきている。

またこれまでの学習では、教材名「くりのみ」内容項目[B 友情、信頼]を通して、友達の気持ちを考え、仲よく助け合っていこうとする態度を育てる道徳の学習を行ってきた。生活科の学習では、班になって学校探検をする活動で、友達と仲よく助け合って学校のことを学習してきた。

このような実態を踏まえ、小グループでの話合いや役割演技などの活動を通し、主題に対する関心を高めると共に、友達と仲よくするために相手の気持ちを考えることの大切さに気付く心情を育てたい。

(3) 教材の特性や活用方法について

本教材は、みそさざい(主人公)がやまがらの誕生日のお祝いに行くか、うぐいすの家である音楽会の練習に行くかで迷う話である。悩んだ末、みそさざいは明るく楽しそうに他の小鳥が行ったうぐいすの家に行くことにする。次に、やまがらのことを気にしながらもうぐいすの家にいるみそさざいが、途中で抜け出してやまがらの家へ訪れるまでの悩み考えた友達への思いを考えさせたい。また、なぜみそさざいは一人だけで抜け出したのかも考えることで、うぐいすへの思いにも触れ、他の小鳥の友達との関わり方についても考えさせたい。最後に、やまがらの家を訪れた時に一人で寂しくしていたやまがらが、みそさざいが来てくれたことに涙を流して喜び、それに対してみそさざいが「来てよかったな」と思った時の2羽の気持ちを考え、友情の深まりに気付かせることで、ねらいに迫りたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 人権教育上のねらい（普遍的な課題「人間の尊厳・価値の尊重」）
自分及びすべての他者をかけがえのない人間として尊重しようとする。

5 人権教育上の視点
相手の気持ちを想像したり感情に共感したりして、友達と仲よくする言動について考え実践することができる。（技能）

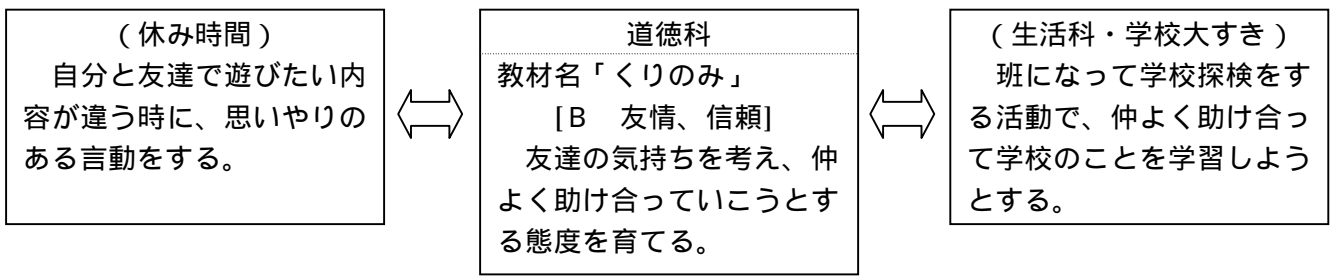
6 学習指導過程

人権教育上の配慮

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 評価の視点	時間
導入	1 アンケート結果を知って感想を言ったり、友達について思い出したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が多い人が多いな。 ・小さい頃からの友達と小学生になってからの友達と両方いるな。 ・一緒に遊んだり優しくしてくれたりする。 	・事前の道徳アンケート結果をもとに、主題に対する関心を高める。	3分
	友達と仲よくすることについて考えよう。			
展開	2 教材について知る。	<p>【登場人物】（主人公）みそさざい （相手方）やまがら うぐいす</p> <p>【条件・状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそさざいは、やまがらとうぐいすと友達である。 ・同じ日にやまがらからもうぐいすからも誘われる。 		2分
	3 「二わの小とり」の読み聞かせを聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を用いて、分かりやすく登場人物や条件・状況をおさえる。 ・やまがらとうぐいすの家を対比させて、視覚的に内容を捉えやすいようにする。 	5分
	4 教材について話し合う。 (1)迷っていたけれど、他の小とりと一緒にうぐいすの家に行くことにした時のみそさざいはどんな気持ちか。 (2)やまがらのことが気になり出したみそさざいは、どんなことを思	<ul style="list-style-type: none"> ・他の小とり達も行くから一緒に行こう。 ・明るくて大勢いる方が楽しい。 ・暗くて遠い方は嫌だな。 ・やまがらさん、待っているかな。 ・せっかくの誕生日なのに、お祝いに行かなくていい 	<ul style="list-style-type: none"> ・やまがらはみんなが来てくれることを楽しみに待っているだろうという気持ちを想像させる。 ・他の小とり達と同じ行動をとってしまうみそさざいの気持ちに共感させる。 ・初めは「こっちに来てよかった。」と思っていたみそさざいが、やまがらのことを考えて思い悩んでいる気持ちを考えさせる。 	23分

<p>展 開</p>	<p>ったか。</p> <p>(3)他の小とり達を誘わずにそっと自分だけやまがらの家に行った時、みそさざいは、どんなことを考えていたか。</p> <p>(4)お祝いに行ったみそさざいと涙を流して喜ぶやまがらの2羽の気持ちを考える。</p> <p>5 友達のことを思い、友達にしてあげたいことや言ってあげたい言葉などを考える。</p>	<p>のかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなは行かないのかな。 <p><やまがらへ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけでも行って誕生日を祝ってあげよう。 <p><うぐいすへ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で抜けると悪いから、言わないで行こう。 <p><他の小とり達へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなも誘って行った方がいいかもしれないけれど、楽しんでいるから、一人で行こう。 <p><みそさざい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなに喜んでくれるなら、最初からこっちに来ればよかった。 ・一人だけでも来てよかった。 <p><やまがら></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来てくれて嬉しいよ。 ・みそさざいさん、ありがとう。 ・いい誕生日になったよ。 <p>・泣いている子に「どうしたの。大丈夫。」と言ってあげたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人にいる子がいたら、「一緒に遊ぼう」と誘ってあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループになり、うぐいすの家をそっと抜け出したみそさざいの気持ちについて話し合わせる。 ・やまがら、うぐいす、他の小とりと三者に向けた気持ちを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの思いを考えさせ、ペアになって2羽の役割演技を行う。 ・赤帽子がみそさざい、白帽子がやまがらと帽子を色分けして、役割演技をさせる。 ・やまがらの喜ぶ姿を見て、「来てよかった。」とみそさざいが心から感じている思いを味わわせる。多様な役割演技を通して、2羽の気持ちを様々な面から考え発言している。 <演技・発言> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を書くように促す。 ・ワークシートに書く活動を通して、「相手の気持ちを考えることの大切さ」をより実感させたい。相手を思いやる言動が考えられるよう、日常の具体的な場面を記載したワークシートを活用する。 (技能) ・日常の具体的な場面を想起しながら、相手の気持ちを考えて助け合ったり仲よくしたりする大切さについて自分なりの思いを書いている。 <ワークシート・発言> 	<p>10分</p>
<p>終 末</p>	<p>6 友達に関する詩を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・心に余韻を残して終わるようにし、今後友達との仲をよりよくしていこうとする心情を高めさせる。 	<p>2分</p>

7 他の教育活動との関連



家庭・地域社会との連携

- ・ 期間を設けて、友達に優しくしてもらったり助けてもらったり、逆にしてあげたりしたことを家族に話す取組を行い、懇談会で保護者に話してもらう。

8 評価の視点

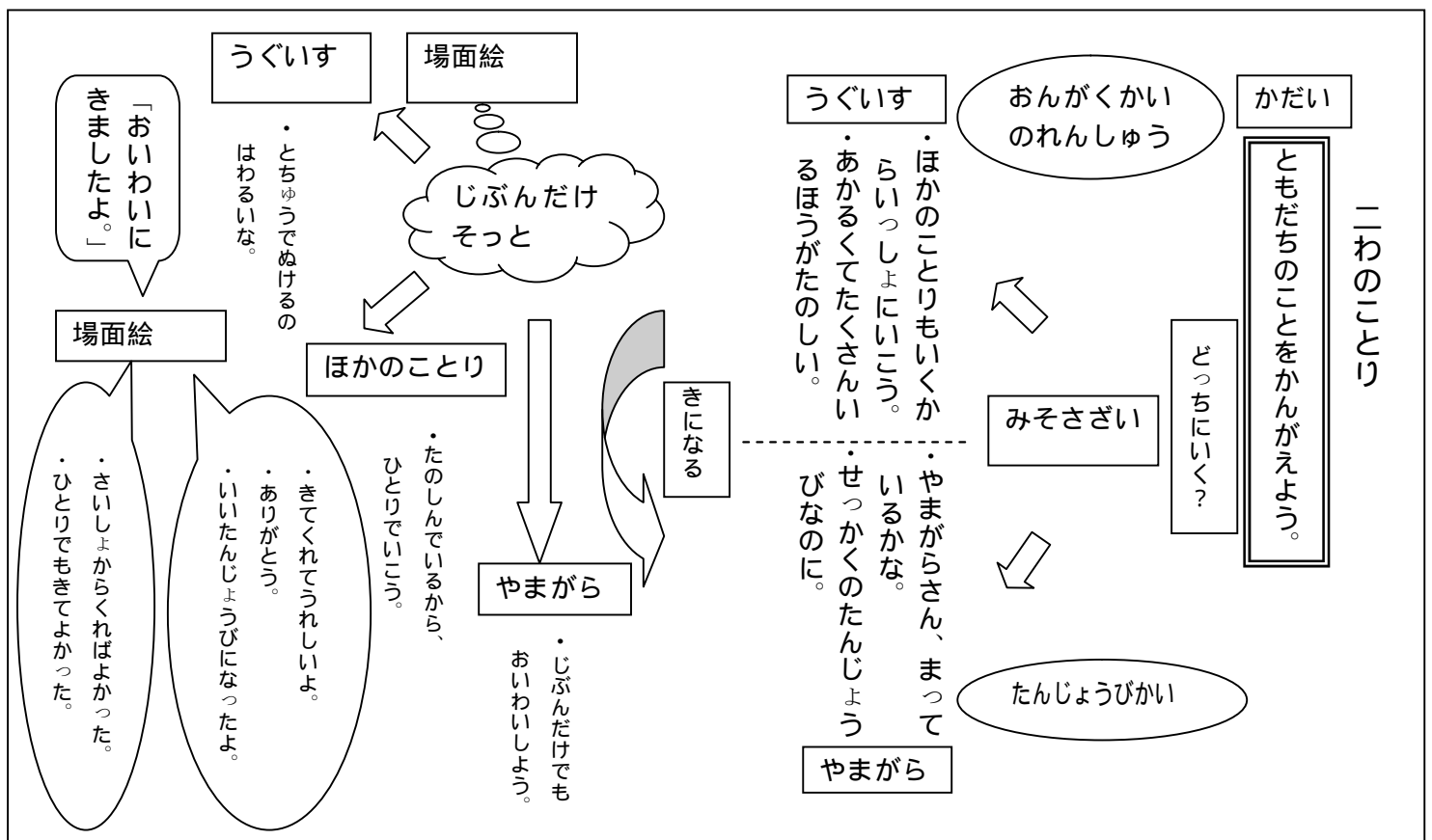
物事を多面的・多角的に考えている様子

- ・ みそさざいが相手の気持ちを考えた行動を取ったことと2羽の友情の深まりに気付くことができたか。

道徳的価値についての理解と自分との関わりで考えている様子

- ・ 相手の気持ちを考えて助け合ったり仲良くしたりしようとする心情になれたか。

9 板書計画



小学校第4学年 音楽科学習指導案

1 題材名 旋律の重なりを感じて表現しよう

2 題材設定の理由

(1) 学習指導要領との関係

本題材では、主に小学校学習指導要領 A表現 歌唱 ウ「呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない歌い方で歌うこと。」エ「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」と関連し指導計画を進めていく。

(2) 題材に関わる児童の実態

本学級は、歌唱活動に意欲的に取り組める児童が多い。発声指導の積み重ねにより、音程に気を付けて歌えるようになってきている。旋律を合わせて歌う活動は、1学期に取り組んだ『子供の世界』で、アの旋律とイの旋律を合わせて歌う経験をしている。しかし、この教材ではただ2つの旋律を合わせて歌っただけにとどまり、互いの声部を聴き合って歌うことまでには達していない。

(3) 本題材における指導

本題材では、二部合唱に取り組む。まずは、主な旋律を正しい音程で歌えることをめあてに学習を進める。そして、2つの旋律が重なり合う響きを感じながら表現できるようにしていきたい。3度の響き合い、旋律進行の中での6度の響きを十分感じ取って歌えるようにしていきたい。

本時では3、4人グループで3度の重なりをつくり上げる活動を通して二部合唱に取り組めるようにしていく。そして、自分と友達の歌声を調和させることにより心を合わせて歌う喜びを体験させていきたい。

【グループづくりについて】

音楽科では常時活動として、どの学年・学級でも男女混合3、4人のグループを音楽に合わせてつくり、拍に合わせてリズム遊びをしたり、誰とでも分け隔てなく手をつなぐことができるようなコミュニケーション活動をしたりしている。この活動を通して学級の誰とでも一緒に学習することが当たり前になり、全員が(一人残らず)学びに参加できるようになってきている。音楽科の学習は、集団で表現することが多い。学級全員が一体となって楽しく学習に取り組めるようにしていきたいと考えている。また、声や音を聴き合い互いに認め合いながら学習を進めていき、自分のできないことや分からないことを出し合い、解決できる方法を探していったり、より高い課題へもチャレンジしたりして学び合いを深めていくようにしている。

3 研究主題との関わり

本校では、研究主題「聴き合い、学び合う児童の育成～一人残らず学ぶ権利を保障する学校を目指して～」に向かい全職員で取り組んでいる。

【手だて】

- (1) グループ学習で音程やリズムの確認をし合っていく。
- (2) 音叉やピアノの音を手がかりにお互いの声の高さを聴き合うようにする。
- (3) 異なった2つの音を重ね3度の音の重なりをつくり合う活動から合唱活動へと発展させていく。

4 題材の目標

二部合唱に関心をもち、友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせて歌うことに取り組む。

○2つの旋律の重なりを聴き、その美しさを感じ取りながら、歌唱表現を工夫し、学びを深める。

2つの旋律が重なり美しさを感じながら合唱する。

5 教材

「もみじ」 文部省唱歌 高野辰之作詞 岡野貞一作曲 中野義見編曲

6 本題材で主に扱う〔共通事項〕と学習活動の関わり

共通事項	音の重なり	旋律	フレーズ
主な学習活動	・2つの音を重ねて響き合わせる。	・主な旋律を歌う。 ・副次的旋律を歌う。	・フレーズを感じて歌う。

7 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
二部合唱に関心をもち、友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。	主な旋律と副次的旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す美しさや面白さなどを感じ取りながら歌唱表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	主な旋律、副次的旋律を正しい音程やリズムで歌っている。 主な旋律と副次的旋律の重なり的美しさを感じながら、自分の声を合わせて歌っている。

8 指導と評価の計画 (全4時間扱い)

時	学習内容 ・主な学習活動	・指導上の留意点 評価規準【評価方法】 人権教育上の配慮
1	歌詞の表す情景を想像し 主な旋律を歌う。 ・歌詞を音読する ・範唱を聴き、聴唱する。	・「もみじ」の情景を簡単に理解できるようにする。 ・グループで声を聴き合い音程を確認していく。 お互いの声を聴き合いながら歌うように声をかける。 ・1番の歌詞を覚えて歌唱できるようにする。 音楽表現の技能 【演奏の聴取】

	<ul style="list-style-type: none"> ・音程・リズムに気を付けて主な旋律（高音部）を歌う。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 前半の副次的旋律を歌えるようにし、前半部分を二部合唱する。 ・楽譜を見ながら副次的旋律を知る。 ・副次的旋律を歌えるようにする。 ・二部合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて、主な旋律と輪唱風に重なる副次的旋律の形を捉えられるようにする。 ・ 二つの旋律の重なりや、かけ合いの面白さ感じて歌えるようにしていく。 ・ 主な旋律と副次的旋律とに分かれて合唱する。どちらのパートも経験できるようにしていく。 <p>お互いのパートの音を聴き合いながら音を共有できるようにしていくようにする。</p> <p>音楽表現の技能 【演奏観察】</p>
3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 後半の副次的旋律を聴き取り、副次的旋律の重なり的美しさを感じながら歌う。 ・ 範唱を聴き後半の副次的旋律を知る。 ・ 主な旋律を歌う。 ・ 後半の副次的旋律を歌う。 <p>二部合唱をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な旋律と副次的旋律を重ねて範唱を聴き、音程、リズムの重なりが分かるようにする。 ・ 主な旋律の音と副次的旋律の音を重ねる練習をする。 ・ 後半の副次的旋律の重なり的美しさを感じながら歌えるようにする。 <p>各自の練習状況を語り合いお互いを認め合っていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な旋律（高音部）副次的旋律（低音部）どちらのパートも経験できるようにしていく。 <p>音楽表現の創意工夫 【演奏観察】 音楽表現の技能 【演奏観察】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の重なる美しさを感じながら二部合唱する。 ・ 高音部、低音部の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二部合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのパートの中でグループをつくり、声を聴き合いながら練習を進める。 <p>お互いの声を聴き合い音程、ハーモニーを共有し合唱する楽しさを感じ合えるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハーモニーを確認しながら部分練習をし、旋律の重なる美しさを感じながら二部合唱を仕上げられるようにしていく。 <p>音楽への関心・意欲・態度 【演奏の聴取】 音楽表現の創意工夫 【演奏観察】</p>

9 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

友達の考え方や感じ方を認め合う中で、意見や気持ちを適切に伝えることができるようにする。

10 人権教育上の視点

（1）友達の考え方や感じ方を共感しながら聴く態度を育てる。（価値・態度）

（2）自分の考え方や感じ方を伝えることができる。（技能）

1 1 本時の学習指導（3 / 4時）

（1）本時の目標

後半の副次的旋律を正しい音程やリズムで歌うとともに、主な旋律と副次的旋律の重なりの美しさを感じ取りながら歌唱表現を工夫し、二部合唱をする。

（2）展開

人権教育上の配慮

学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点 評価	時間
常時活動を行う。 「もみじ」の主な旋律を歌う。 ・ 主旋律（高音部）を伴奏に合わせて歌う。 ・ 高音部を無伴奏で歌う。	3、4人の男女混合のグループを音楽に合わせて作り、誰とでもコミュニケーションを図れるようにする。 【価値・態度】 伴奏をよく聴きそろえて斉唱できるようにする。 音程、リズムが正しく歌えているか確認する。	5 分 5 分
後半の低音部を音程やリズムに気を付けて歌おう。		
後半部分の低音部の旋律を歌う。 ・ 範唱を聴く。 ・ 低音部を歌う。	主旋律を半数の児童が歌い、教師が低音部の旋律を歌って合わせ、聴き取れるようにする。 （歌う、聴くの役割を交代する。） 2段目の最終小節から歌い出せるように練習する。自分の音やリズムが取りにくいところをグループで繰り返し練習する。 練習の後に自分の学習状況を語り合う場面を設定することで、お互いを理解し合うようにする。 【技能】 4段目のリズムを取れるように拍打ち、リズム打ちをして確認する。 低音部の旋律が正しい音程やリズムで歌えるようによく聴き取って練習している。【演奏態度観察】	1 0 分
後半部分の二部合唱をする。 ・ 出だしの音の3度の音程を重ねる。	高音部と低音部を担当するグループを決める。 （高音部と低音部の役割を交代する） 高音部、低音部担当の2つのグループで、3段目の出だしの音「ド」「ラ」の3度のハーモニーをつくる。（必要に応じてピアノ、音叉で音を取る。）	2 0 分
2つのグループで声の重なりの美しさを感じながら二部合唱しよう。		

<p>グループ同士で二部合唱をする。</p>	<p>無伴奏で2つのグループで合唱をする。 (低音部の音程が不安定な場合はピアノ等で支援していく。) 繰り返しいろいろなグループと合唱をしていく。 グループの役割分担を交代して合唱する。 お互いの声を聴き合い、音を共有することで、共感しながら聴く態度を育てる。 【価値・態度】 主な旋律と副次的旋律の重なり的美しさを感じ取りながら、互いの声を聴き合い、歌唱表現を工夫して合唱している。 【練習態度観察】</p>	
<p>学級全体で二部合唱をする。 (全曲通して)</p>	<p>個人の希望で高音部・低音部の担当を決める。 伴奏で音程の支援をし、合唱の響きを確認する。 実態に応じて伴奏を入れて仕上げるか、無伴奏で仕上げるか判断していく。</p>	<p>5分</p>

(3) 板書計画

後半の低音部パートを音ていやリズムに気を付けて歌おう。

グループで声をきき合いで音ていをたしかめて歌いましょう。

おたがいの声をきき合いましょう。

2つのグループで声の重なり的美しさを感じながら二部合唱をしよう。

高音部

楽譜 ド

低音部

楽譜 ラ

2つの音を重ねよう

はじめの音をかくにんして歌い出しましょう。

音さ ピアノ

いろいろなグループとひびき合わせて合唱しましょう。

小学校第5学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 誠実に生きる 内容項目 [A 正直、誠実]
- 2 ねらい 約束を守ることやごまかさないことは、相手のためだけでなく、自分の生き方や打ちにかかわるものであることを理解し、自分の言動に責任をもち、相手にも自分にも誠実に行動しようとする心情を育てる。
- 教材名 「手品師」（出典 学研「みんなのどうとく 5年」 埼玉県版）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目A 正直、誠実を深めることを意図したものである。これは、中学年の内容項目「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」を受け、高学年の「誠実に、明るい心で生活すること。」へとつながってきている。そして、さらに、中学校の内容項目A 自主、自律、自由と責任「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事」へと発展していく。

指導にあたっては、一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。誠実さが自分の内面を満たすだけでなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けて発揮されるような人間の育成を図りたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、素直で穏やかである。女子は思いをはっきりと述べることは苦手だが優しく、男女ともに、相手のよさを認め、お互いに協力し合うことができ、クラスのチーム力を高めようがんばっている。しかし、教師に注意を受けたり、何か失敗したりすると、自分の立場が不利にならないよう黙ってしまい、何も言えなくなってしまう場面も見られる。そこで、弱い自分に打ち克ち、それらを乗り越えることは、明るく楽しい生活を送り、自分らしく生きていくためにとても大切であることに気付かせたい。

本授業を行うにあたって、以下のような意識調査を実施した。

【意識調査結果 9月25日 実施】

「誠実な人」とはどんな人だと思いますか。

- | | | |
|----------------|----------|------------|
| ・正しい | ・まじめ | ・やさしい |
| ・ていねいに確かにやりきる人 | ・約束を守る人 | ・一生懸命がんばる人 |
| ・正直な人 | ・いい人 | ・真剣な人 |
| ・心がきれい | ・あきらめない人 | ・うそをつかない |
| | | ・素直 |

「誠実」と言われてもすぐにイメージすることができず、漢字からイメージをしてみるように話したところ、上記のような回答が返ってきた。本資料の手品師の生き方から、「誠実な人」とはどんな人かを捉え、誠実に生きることが積極的な生活態度や行動、自信や自己肯定感につながっていくことに気付かせ、誠実に生きることの大切さを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本資料は腕はいいがあまり売れない手品師の話である。主人公の手品師は、出会ったばかりの男の子を手品で励まし、翌日もその子と会う約束を交わす。ところが、その日の夜、手品師に大劇場のステージへの誘いが舞い込む。迷いに迷った手品師は、結局友人からの誘いを断り、翌日も小さな町の片隅で男の子1人を相手に、次々と素晴らしい手品を演じるという内容である。

本時では、あまり売れない手品師が、大劇場のステージに立てる日が来るのを願って腕を磨いている場面、手品師が、さびしそうな男の子に手品を見せ、すっかり元気になった男の子に明日も「きっと来るよ」と約束した場面、手品師が、友人からの知らせ(大劇場のステージに立てるチャンス)を受けて迷っている場面までを読み、手品師が「男の子との約束を守る」のか、「自分の夢であるステージに立つ」ことを選ぶのかという葛藤場面について、充分考えさせ、手品師の心の葛藤の深さを感じ取らせたい。その上で、手品師が、友人からの誘いを断り、たった一人のお客様(男の子)を前にして手品を演じる場面を読み、この手品師が男の子との約束を選択することで何を大切にしようとしたのかを考えさせ、後悔しないために自分の気持ちに正直に選ぶことの大切さと、相手に対する誠実さの両方がそろった時に本当にスッキリした気持ちになることに気付かせ、ねらいに迫る。

最後にこの手品師は「誠実な人であるか」をたずね、授業のはじめの「誠実な人」のイメージに加え、誠実とは、相手のためだけでなく、自分の生き方にもかかわるものであり、自分にとっても大切なものであることなどに気付かせたい。そして、誠実に生きることのすばらしさを感じ取らせるとともに、自分の行動に責任をもち誠実に明るい心で生活しようとする心情を、本資料を通して育てたい。

4 人権教育上のねらい(普遍的な課題「人間の尊厳・価値の尊重」)

自分及び他者をかけがえのない人間として、その思いや存在、価値を尊重することができる。

5 人権教育上の視点

(1) 主人公の思いを自分のこととして捉え、自分自身に誠実に向き合おうとしている。

(価値・態度)

(2) 自分や他の人の考え方を尊重し、いろいろな感じ方があることに気付くことができる。

(技能)

6 学習指導課程

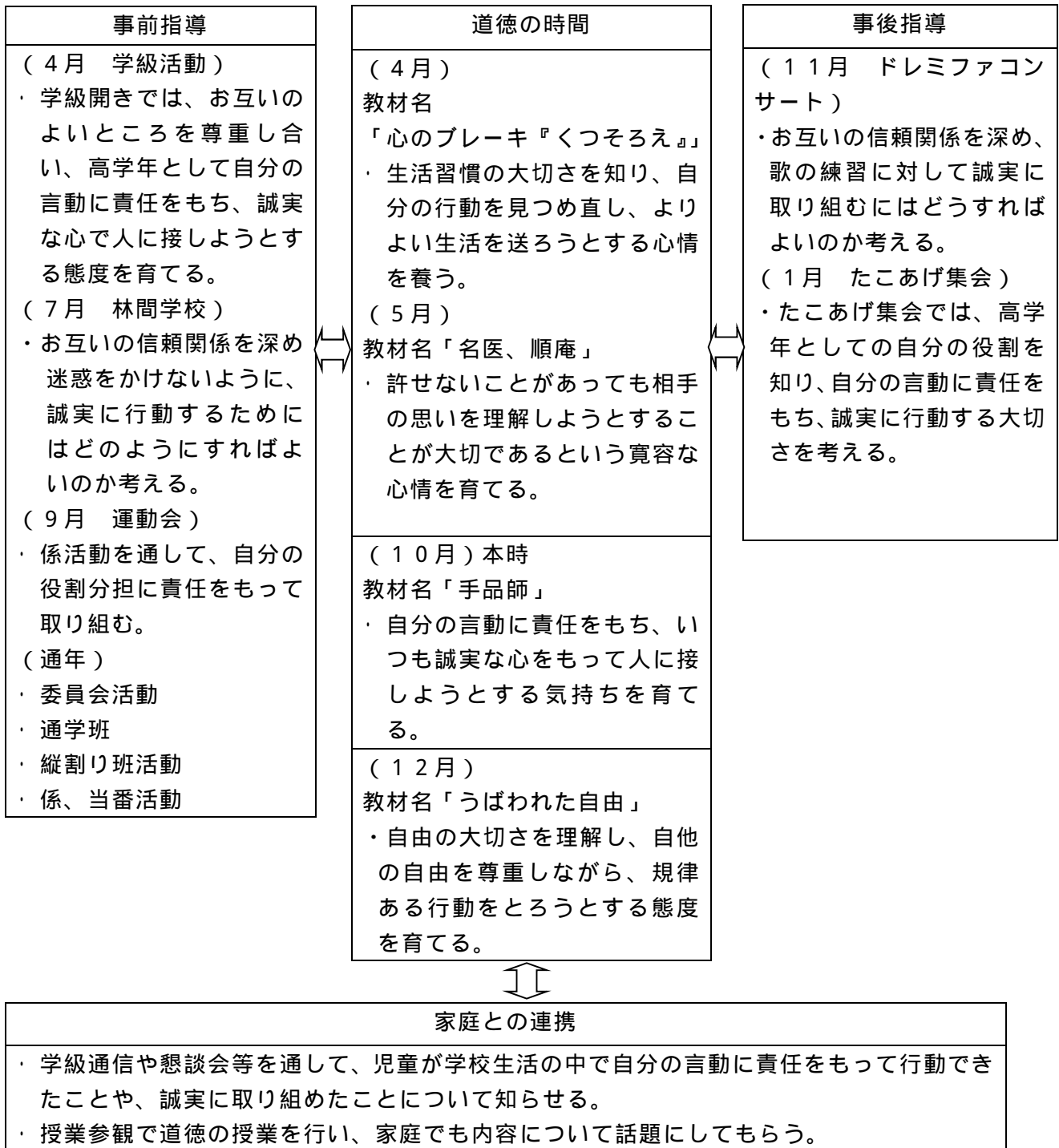
人権教育上の視点

段階	学習活動 主な発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価 ユニバーサルデザインの視点	時間
導入	1 主題について考える。 アンケートの結果を紹介する。	・正しい・真面目・やさしい・正直・確かにやりきる・あきらめない	・事前に聞いた「誠実な人」のイメージを示す。 ・主題に対する興味や関心を高め、学習意欲を喚起する。	3分

	<p>2 登場人物、条件・状況について知り、教材「手品師」の読み聞かせを聞く。</p>		<p>ユ「誠実な人」について考えることを伝え、学習に見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誠実」についてのイメージを自由に発表できる雰囲気をつくる。 <p>ユ 挿絵や短冊を使い、登場人物や条件・状況をしっかり押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材は迷っているところまで読む。 ・主人公の心の内がつかめるように、問の取り方やキーワードに気をつけながら読む。 	5分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手品師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うではいいが、あまり売れない。 ・厳しい生活。大劇場のステージに立つことを願っている。 <p>男の子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しょんぼりと道に座り込んでいる。 ・お父さんは死んでしまっている。 ・お母さんが働きに出てずっと帰ってこない。 </div>				
展 開	<p>3 手品師はどんな気持ちで男の子と約束したのか考える。 手品師はどんな思いで「きっとさ。きっと来るよ。」と男の子と約束したのでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ぼっちでかわいそう。 ・どうせ暇だ。 ・明日も喜ばせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子を見過ごすことができなかつた手品師の気持ちを考えさせ、手品師の人柄を捉えさせる。また、男の子の喜ぶ様子にも着目させる。 	5分
	<p>4 迷いに迷った手品師の気持ちを考える。 迷いに迷った手品師はどんなことを考えていたのだろうか。</p>	<p>【大劇場へ行く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと夢だったから。 ・大勢の人を喜ばせたい。 ・お金をもらえる。 ・誘ってくれた友人に悪い。 ・男の子には謝ればいい。 <p>【男の子のところへ行く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子との約束が先だった。 ・男の子を放っておけない。 ・チャンスはまたあるさ。 ・うそつきだと思われたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人からの電話を受けて、手品師はどんなことを考えているか自由に出させる。 ・一方に決めることの難しさを押さえた上で「迷っている手品師がどのような行動をとったか」予想させる。立場を支える理由を交流したり、その結果を想像したりと、多面的・多角的に話し合っている。様々な思いがあることに気付き、お互いの考えを認め合うことができる。【技能】 	8分
	<p>5 手品師が男の子との約束を守ることで大切にしよう</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後半を読み聞かせる。 	

	としたものは何か考える。			
展 開	<p>どうして、手品師は男の子との約束を守ろうとしたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大劇場に行っていたら男の子のことが気になる。 ・約束を破る人になりたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子との約束を守ったことを押さえる。 ・「男の子のため」に話合いがとどまったときは、「男の子のため」だけであるかを問い、「自分のため」でもあることに気付かせる。 ・さらに、なぜ「自分のため」なのかを考えさせ、「誠実」の意味について、より高い道徳的価値に気付かせる。 ・男の子に手品を披露しているときの充実感についてもふれておく。 ・子供の状況を把握しながら、ペア、グループの話合いを随時取り入れる。 <p>主人公の思い、男の子の思いのどちらもかけがえのないものとして捉えようとしている。【価値・態度】</p>	10分
	<p>6 手品師は「誠実な人」であったか考える。手品師は「誠実な人」だと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考えて行動したから誠実な人。 ・男の子にも、自分にも、友人にも誠実であった。 		8分
終 末	<p>7 授業のまとめをする。今日の授業でどのようなことを考えましたか。学んだことやこれからの生活に生かしたいことを書きましよう。</p> <p>教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で正しいと思ったことを信じて行動したい。 ・相手にも、自分にも誠実でありたい。 ・他人にも自分にも正直に行動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を取り入れることによって、子供一人一人が道徳的価値の自覚を深められるようにする。 自分の言動に責任をもち、相手にも自分にも「誠実」であることの大切さについて、これからの生活と関連付けて書いている。 それぞれの思いを受け止め、称賛する。【価値・態度】 	6分

7 他の教育活動等との関連



8 評価の視点

物事を多面的・多角的に考えている様子

- 行為を支える理由やもたらされる結果について意見を交流している。
道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子
- 自分の言動に責任をもち、相手にも自分にも「誠実」に行動しようとするものの大切さについて、これからの自分の生活を結びつけて考えている。

小学校第6学年 算数科学習指導案

1 単元名 速さの表し方を考えよう

2 単元について

(1) 児童観

	すき	どちらかというときすき	どちらかというとき嫌い	嫌い
算数の学習はすきですか	5人	6人	2人	4人
学びあいについて	6人	6人	3人	2人

本学級は大半の児童が算数の学習が好きであると答えている。好きな理由としては、「計算するのが楽しい、問題が解けたときうれしい、生活に役立つ」等の理由が挙げられた。嫌いな理由としては、「計算や公式が難しい、計算が面倒くさい」等の理由が挙げられた。以上の理由から児童にとって問題が解けるようになると算数が好きだと感じられるようになることがわかる。

また、「学びあい」についてもほとんどの児童が好きであると回答している。好きな理由としては、「わからないところを教えてもらえる、自分と違う意見があって面白い、友達と解決できるから、自分の間違いに気付けた、色んな意見が聞けて考えが深まる」等の理由が挙げられた。嫌いな理由としては、「説明をするのが嫌い、説明をするのが苦手」等の理由が挙げられた。しかし、嫌いと回答した児童も他の人の意見が聞けることはよかったと答えている。このような理由から友達の意見を聞くことは良いと感じているが、自分が説明することに苦手意識を感じていることがわかる。

(2) 指導観

上述のような児童の実態から、自力解決の時点で問題を解決することができるように既習事項をもとにして解決の見通しを全体で考えさせるようにしたい。本単元では、第5学年で学習した単位量あたりの大きさの考えを用いて、速さを比べることを学習する。そこで指導にあたっては、既習の単位量あたりの考え方である1秒あたりに走った距離や1mあたりにかかった時間の考え方や、公倍数の考え方をを用いて時間や距離をそろえて比べる方法など自分なりに解決方法を考え出すプロセスを大切に、単位量を揃えるという考え方を引き出した

い。そして、「学びあい」の場面では自分の意見を説明することが苦手と感じている児童が多いため、説明をするための手掛かりとして話型を提示したり式の意味を考えさせたりしたい。また、多様な考え方が共有できるように違う意見の児童で話し合いが行えるようにしたい。

3 研究主題との関わり

【研究主題】	『児童の思考力・表現力を高めるための授業の創造』 - 児童の主体的な学びあいとまとめをめざして -
--------	--

(1)「学びあい」の工夫

- ・自分の考えを小集団で説明したり、全体で考えを共有したりする時間を十分に設定すれば、進んで「学びあい活動」ができ、理解を深められるだろう。

(2)まとめ(振り返り)の工夫

- ・課題を設定した際、本時のまとめはどのようになるかを押さえれば、見通しをもって授業に臨むことができ、自分で結論をまとめやすくなるだろう。
- ・授業の中でまとめにつながるキーワードを強調していけば、ポイントを押さえてまとめることができるだろう。

4 単元の目標

- 【関心・意欲・態度】 速さを単位量当たりの大きさの考えを用いて数値化したり、実際の場面と結びつけて生活や学習に用いたりしようとする。
- 【数学的な考え方】 速さの表し方や比べ方について、単位量当たりの大きさの考えを基に数直線や式を用いて考え、表現することができる。
- 【技能】 速さに関わる数量の関係において、速さや道のり、時間を求めることができる。
- 【知識・理解】 速さは単位量当たりの大きさを用いることで表すことができることを理解する。

5 単元の指導計画(11時間)

1	走った距離、時間が異なる速さの比べ方	1時間(本時)
2	単位量あたりの考えを使った速さの比べ方	1時間
3	歩く速さや走る速さを測定して表す活動	1時間
4	速さを求める公式・時速、分速、秒速の意味	1時間
5	道のりを求める公式	1時間
6	速さと道のりから、時間を求める方法	1時間
7	時間を分数で表し、速さを求める方法	1時間
8	時間と道のりの関係は比例であることを確かめること	1時間
9	作業の速さを比べること	1時間
10	学習内容の習熟	2時間

6 人権指導上のねらい(普遍的な課題「多様性の尊重・共生」)

友達の考えと自分の考えに違いがあることに気づき、それを尊重できるようにする。

7 人権教育上の視点

- (1) 友達の考えや言動に興味・関心をもつとともに、考え方や価値観には多様性があることに気付くことができる。(技能)
- (2) 多様な考えを受け入れながら、よりよい解決の仕方を探ろうと努力している。(価値・態度)

8 本時の学習 (1 / 1 1)

(1) 目標

距離と時間のどちらも異なる場合の速さの比べ方を考えることを通して、速さは単位量当たりの大きさの考えを用いて表せることを理解する。 (知識・理解)

(2) 展開

人権教育上の配慮

学習活動 主な発問 (○)	予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価 (、) 支援 (☆)												
1 問題場面を知る。 表からわかることは何ですか？	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">3人の速さの順番を調べましょう。</div> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>きょり(m)</th> <th>時間(秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aさん</td> <td>40</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>Bさん</td> <td>40</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>Cさん</td> <td>50</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ AさんとBさんは距離が同じだから、かかった時間が少ないほうが速い。 ・ BさんとCさんは時間が同じだから、進んだ距離が長いほうが速い。 ・ $A > B$、$C > B$ 		きょり(m)	時間(秒)	Aさん	40	8	Bさん	40	9	Cさん	50	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面絵を提示し、問題場面を視覚的に捉えられるようにする。
	きょり(m)	時間(秒)												
Aさん	40	8												
Bさん	40	9												
Cさん	50	9												
2 課題をつかみ、解決のための見通しをたてる。 なぜAさんとCさんは比べられないのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ AさんとCさんは距離も時間も違うから比べられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べられる理由と比べられない理由を明らかにすることで、時間か距離の一方が揃っていれば、もう一方の数量で速さを比べられることに気付くことができるようにする。 												
どうすれば速さが比べられるのでしょうか。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">時間と距離が違う場合どうすれば速さが比べられるのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間か距離の数を同じにすればいい。 ・ どちらかをそろえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に自分で課題を考えさせる。 ・ 本時のまとめの見通しをもたせるようにする。 												
3 自力解決をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>きょりを公倍数でそろえて何秒かかるか比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40と50の最小公倍数は200。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">Aさん</td> <td style="width: 50%;">Cさん</td> </tr> <tr> <td>$200 \div 40 = 5$</td> <td>$200 \div 50 = 4$</td> </tr> <tr> <td>$8 \times 5 = 40$</td> <td>$9 \times 4 = 36$</td> </tr> </table> <p><u>Cさんのほうが速い。</u></p> </div>	Aさん	Cさん	$200 \div 40 = 5$	$200 \div 50 = 4$	$8 \times 5 = 40$	$9 \times 4 = 36$	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決の時間を十分に確保し、一人一人が自分の考えをもって、その後の「学びあい活動」に取り組めるようにする。 						
Aさん	Cさん													
$200 \div 40 = 5$	$200 \div 50 = 4$													
$8 \times 5 = 40$	$9 \times 4 = 36$													

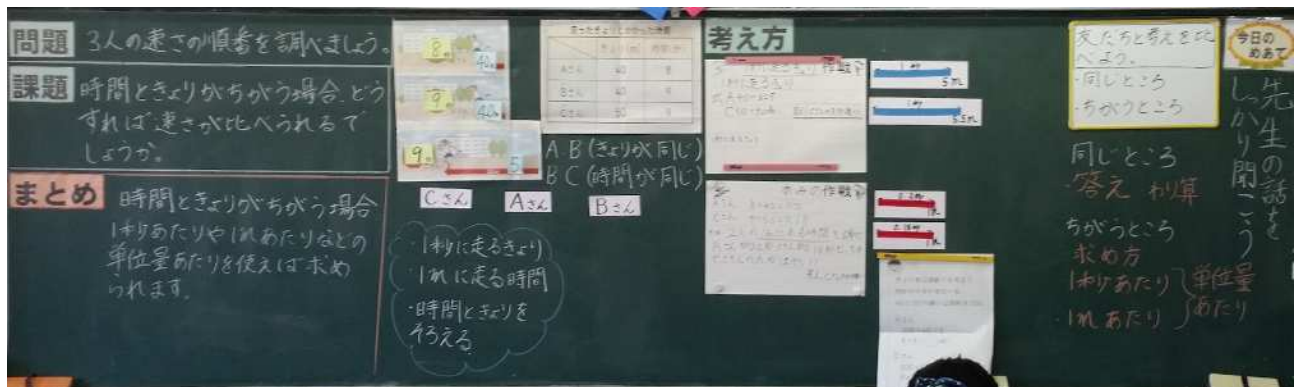
	<p>1 mあたり何秒で走ったか比べる。</p> <p>Aさん Cさん</p> <p>$8 \div 40 = 0.2$ $9 \div 50 = 0.18$</p> <p><u>Cさんのほうが速い</u></p>	
<p>4 考えを発表し合い、比較し、検討する。</p>	<p>1 秒間あたり何m走ったか比べる。</p> <p>Aさん Cさん</p> <p>$40 \div 8 = 5$ $50 \div 9 = 5.5\dots$</p> <p><u>Cさんのほうが速い</u></p>	<p style="text-align: center;">【本時における、研究仮設にせまる手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを3人組で説明したり、全体で考えを共有したりする時間を十分に設定することで、理解を深めさせる。 ・学びあいの視点は同じところと違うところにする。 ・立式の意味を話し合わせるにより、速いと判断した根拠を明確にし、理解を深めさせる。
<p>(3人組)</p> <p>自分の考えを伝え、友達はどんな考え方をしているか比べてみよう。</p> <p>(全体)</p> <p>それぞれの方法はどんな比べ方をしているのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・距離か時間のどちらかをそろえている。 ・1秒、1mあたりにそろえている。 ・単位量当たりの考えを使っている。 ・比べる単位は違う。 <ul style="list-style-type: none"> ・単位をそろえる方法は同じ。 ・そろえるものによって数字が変わるが、結果は同じ。 ・公倍数だと数が多くなった時に大変。 ・1にそろえれば便利。 	<ul style="list-style-type: none"> ・違う考えの児童同士で話し合えるように、グループ分けは教師がする。 ・比べた方法は違うが、結果は同じになるか確認させる。 ・式の意味も伝えられるようにする。 <p>いろいろな考え方があることに気付かせるため、自分の考えとの違いに着目して、友達の考えを聞くよう促す。【技能】</p> <p>よりよい解決の仕方を探ろうとする態度が身に付くよう、いろいろな考えを取り上げ、比べ方の違いとその考えのよさを考えるよう促す。【価値・態度】</p>

<p>5 まとめ ○自分の言葉でまとめてみよう。 今日のふりかえりをしよう。</p>	<p>まとめ ・時間と距離が違う場合、1秒あたりに走った距離や、1mあたりにかかった時間など、単位量あたりの考えを使えば比べられる。</p>	<p>式の意味を考えながら問題解決に迫っている。 速さは単位量あたりの大きさの考えを用いて表せることを理解している。 どちらかを同じ量にそろえることを確認し、どうしたらそろえられるか助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に自分の言葉でまとめさせる。 ・まとめを学級で共有する。 ・次時の見通しをもたせる。
--	--	--

9 板書計画

<p>問題 3人の速さの順番を調べましょう。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>きより(m)</th> <th>時間(秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aさん</td> <td>40</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>Bさん</td> <td>40</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>Cさん</td> <td>50</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>		きより(m)	時間(秒)	Aさん	40	8	Bさん	40	9	Cさん	50	9
	きより(m)	時間(秒)											
Aさん	40	8											
Bさん	40	9											
Cさん	50	9											
<p>課題 時間と距離が違う場合どうすれば速さが比べられるでしょうか。</p>	<p>考え</p>												
<p>まとめ ・時間と距離が違う場合、1秒あたりに走った距離や、1mあたりにかかった時間など、単位量あたりの考えを使えば比べられる。</p>	<p>1秒間あたり何m走ったか比べる。 Aさん Cさん $40 \div 8 = 5$ $50 \div 9 = 5.5\dots$ Cさんのほうが速い</p>												
	<p>きよりを公倍数でそろえて何秒かかるか比べる。 ・40と50の最小公倍数は200。 Aさん Cさん $200 \div 40 = 5$ $200 \div 50 = 4$ $8 \times 5 = 40$ $9 \times 4 = 36$ Cさんのほうが速い。</p>												
	<p>1mあたり何秒で走ったか比べる。 Aさん Cさん $8 \div 40 = 0.2$ $9 \div 50 = 0.18$ Cさんのほうが速い</p>												

10 実際の板書



小学校特別支援学級 道徳科学習指導案

1 主題名 ともだちのよいところを見つけよう 内容項目〔B 友情、信頼〕

2 ねらい 友達の良さを見つけ、仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。
教材名 「ともだちっていいね」（自作資料）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容項目〔B 友情、信頼〕は、「友達と仲良くし、助け合うこと」をねらいとしている。この項目は、第3学年及び第4学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」へつながり、第5学年及び第6学年の「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」へと発展していく。

本学級は、6名が在籍する知的障害特別支援学級である。そのため、道徳教育の実践にあたっては、低学年から高学年への発達の段階を考慮した、基本的な生活習慣の伸長や、自分の気持ちを考えること、他人との関わり方の基本となる相手の気持ちを考えることを中心として考えることとした。他者とのつながりをどのように深めていくかは、本学級の児童にとっては大きな学習課題である。知的障害特別支援学級ではあるが、情緒的な課題のある児童も複数名在籍している。障害の特性からも自己中心性が強く、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しい児童も多い。よりよい人間関係の構築には、お互いの信頼関係を築くことが不可欠であると考え。そのため、日常生活の様々な場面で、相手を認め、理解し合うことが大切である。子供たち一人一人、それぞれによりよいところがあることに気付くような児童を育成したいと考えている。友達の良さを見つけ、お互いを認め合う活動を通して、子供たちの信頼関係が一層深まることを期待したい。また、同時に自分自身のよさに気付くことで、自信をもって生活しようとする心情を育てたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況及び実態について

本学級は単学級の特別支援学級である。4、5、6年生は学校生活の流れがよく分かり、自分から進んで行動できることが増えてきている。1、2年生については学校生活の流れに慣れ始めたところであり、支援が必要な場面が多い。それぞれの特性や課題の差は大きいですが、どの児童も明るく元気に学校生活を送っており、学習に対する興味・関心が高い。

自分のこと、友達のことについて認識する指導を適宜取り入れてきた。自分以外の他者との関わりについては、休み時間に、一緒に遊ぼうと声をかけ合って遊ぶ姿は見られるものの、お互いに交流しながら遊ぶよりも、それぞれが好きなのをしていて、同じ場所にいるだけという様子や、自分の思いが通らないとすぐトラブルになる場面も多い。

また、昨年度まで4、5、6年生の4人は、在籍児童の入れ替えなく生活をしてきている。そのため、お互いの距離感が近く、付き合い方が固定している様子がうかがえる。通常の学級での交流学习を多く経験してきているが、できないことを実感することもあり、自己肯定感が低く、自信の無さも強く感じる。交流学級から特別支援学級に戻ってきた時には、自己肯定感の乏しさから、互いのできないことや困難さを指摘し合う様子や、相手を傷つける言葉が出る場面も少なからず見られた。お互いのよさを知ってはいるものの、それを伝え合う経験は少ない。学級全体で、友達との関わり方の大切さや素晴らしさを実感できる体験の必要性を感じている。

(3) 教材の特性や活用方法について

本資料は、本学級の児童の実態などを踏まえて、担任が自作したものである。資料作成にあたっては、以下の点に留意した。

- 内容項目〔B 友情、信頼〕のねらいとするところを押さえている内容であること
- 本学級の実態に応じた分かりやすい内容であること
- 文字言語を用いずに資料渡し可能な内容であること

また、展開にあたっては、ペープサート劇という形で資料渡しをする。登場人物の心の中を、場面ごとに子供たちに確認していく。また、友達のよいところに気付くことができない主人公の気持ちや、友達に助けられた時の気持ちを、役割演技をさせながら共感できるようにしたい。また、低学年の児童については、言葉で相手のよいところを伝える活動を取り入れたい。高学年の児童については、友達のよさを、カードに書いて発表し合う活動を通して、友達のよさと同時に、自分のよさにも気付けるようにしたい。これらの活動を通して、主題に対する関心をもたせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

(4) 児童の実態及び目標

No	学年	名前	本題材に関する実態
1			内容省略
2			
3			

(5) 個別の指導内容及び目標

No	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1			内容省略	
2				
3				

4 人権教育上のねらい(普遍的な課題「人間の尊厳・価値の尊重」)
自分及び全ての他者をかけがえのない人間として尊重しようとする。

5 人権教育上の視点
自分自身や友達を大切にしようとしている。(価値・態度)

6 学習指導過程 人権教育上の配慮

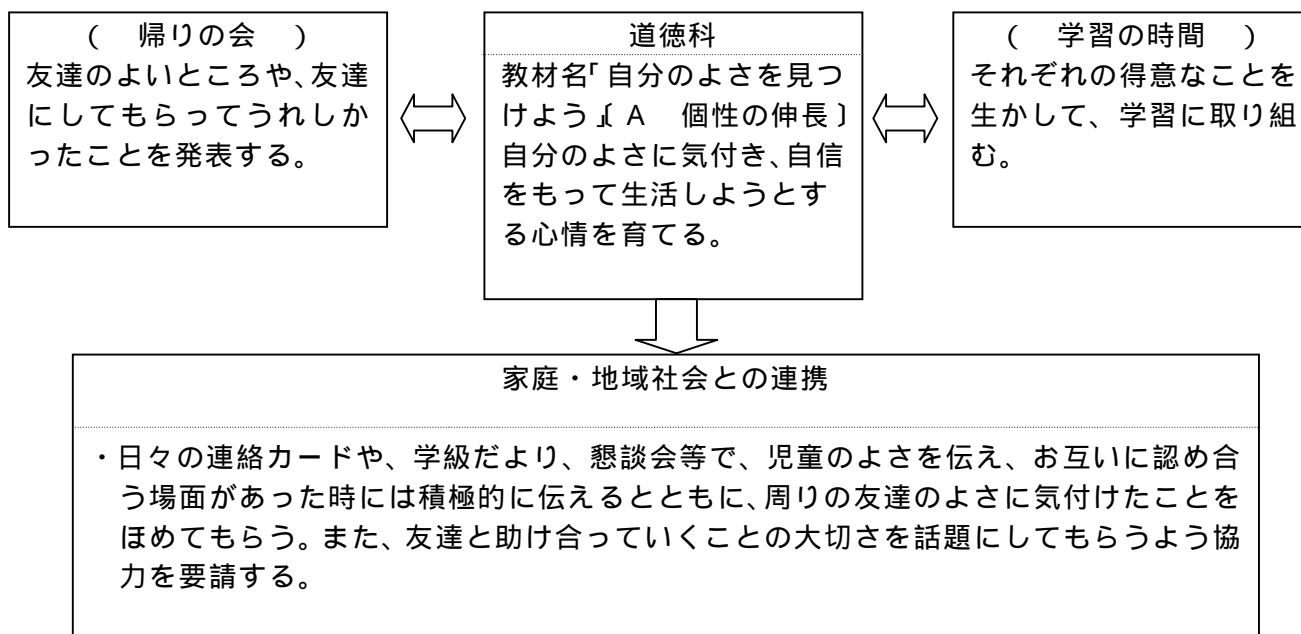
段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 評価の観点	時間
導入	1 自分のよいところとよくないところを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・よいところは、元気なところ。 ・よいところは、器用なところ。 ・よいところは、好き嫌いがいないところ。 ・よいところは、頑張るところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところやよくないところに目を向けさせ、人にはよいところとよくないところを皆もっていることに気付かせる。 ・自分のよさを見つけれない児童には、よさに目を向けることの難しさに共感し、これから一緒に見つけることを伝える。 	5分

導 入		<ul style="list-style-type: none"> ・よいところはよくわからない。 ・よくないところは、すぐけんかをするところ。 ・よくないところは、泣き虫なところ。 ・よくないところはすぐおしゃべりしちゃうところ。 ・よくないところは、すぐに立ってしまうところ。 		
展 開	<p>2 教材について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の登場人物・条件・状況を知る。 <p>・教材の読み聞かせを聞く。</p> <p>3 教材を聞いて話し合う。</p> <p>(1) もともといた仲間を見たスターは、どんな気持ちだったでしょう。</p>	<p>【登場人物】 (主人公) スター (相手方) ちびた・がたお</p> <p>【条件・状況】 ・町の消防署に新しく仲間入りしたスター。 ・ちびたとがたおのよさに気付かないまま、スターは一人で火事の現場へ出かけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい消防車なんて頼りにならない。 ・ボロボロの消防車はちゃんと動くのかな。 ・役に立たない奴らだ。 ・一緒に仕事なんてできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容や主人公の状況に十分浸れるように、ペープサートを用いて条件・状況をおさえる。 ・話を一度に全部聞かせるのではなく、場面ごとに区切りながら、その場面での主人公の気持ちを確認していく。 ・主人公の気持ちに自分の気持ちを託して考えることができるように、役割演技を取り入れる。 ・主人公の気持ちの変化を感じ取るために、ちびたとがたおの気持ちについては触れない。 <ul style="list-style-type: none"> ・小さかったり古かったりする二人の様子を強調し、よくないところに目がいく主人公の気持ちに共感できるようにする。 	15 分

展 開	<p>(2) 山の入り口で入れないスターはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>(3) 二人を待っている時のスターは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>(4) ちびたとがたおのよいところはどんなところでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしよう。 ・ 火事が消せない。 ・ だれかきて。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人では火事を消しに行けないで困っている状況がとらえられるように、キーワードを強調したり、感情をこめて話したりする。 	20分
	<p>4 友達のよいところ探しをする。</p> <p>(1) スターは二人のことをどう思うようになったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人のおかげで火事が消せる。 ・ 二人のことを悪く言っごめん。 ・ 二人には、僕にはないよいところがあるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公が、二人のよいところに目を向けられるようになった心情に共感できるよう、役割演技を通して気持ちを考えさせる。今まで気付いてなかった友達のよいところに目を向けることができたか。 ・ <発言・つぶやき> 	
	<p>(2) 自分の周りの友達に、よいところを伝えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さいから、狭い道に行ける。 ・ でこぼこ道でも行ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公がよくないところだと思っていたところが、実はよいところだったように、人それぞれよくないと思っていても、よさでもあることに気付かせる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ちびたのいいところは、小さくて他の人が行けないところでも行けるね。 ・ がたおは、古いけどでこぼこ道でも行けるくらい丈夫だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人のよいところに目が向けられるように、クラスでのエピソードを随時伝えるようにする。 ・ 高学年は、カードに書いて相手に伝えるようにする。書くことが難しい児童には、どんなことを書いたらよいかの例を示したヒントカードを渡す。 ・ 低学年は、よいところをいくつか表示しておき、それを見ながら「 さんの、 のところが好きです。」という言い方をさせる。 	

			<p>普段の生活を振り返り、身近な友達のよさに目を向けて、気付くことができたか。</p> <p><ワークシート・発言> 互いによいところを伝え合うことを通して、誰にでもよいところがあり、それを認め合って仲良くすることを伝え、このことが自分の生活を豊かにすることに気付かせる。（価値・態度）</p>	
終末	5 家の人に書いてもらった手紙を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保護者に依頼して、自分の子供のよいところを書いてもらう。 ・それぞれの手紙を読むことで、自分にも周りの友達にもよいところがあることを感じ取らせる。 	5分

7 他の教育活動との関連



8 評価の観点

児童の学習状況の評価

- ・主人公の気持ちを考えることを通して、人にはそれぞれよいところがあることに気付くことができたか。

児童の道徳性に係る成長の様子の評価

- ・人にはそれぞれよいところがあることに、身近な友達に目を向けて考えることができたか。

〔せまいやまみち〕

スター
ちびた・がたお

ぼくはいけない・・・
いってくるよ

ちびた・がたお

スター

ちいさい・ふるい
やくにたたない

「ともだちっていいね」

じぶんの
よいところ

じぶんの
よくないところ

わたしにも・みんなにもある
いいところ

10 資料「ともだちっていいね」(自作資料)

- (1) 町の消防署に、新しい仲間が来ました。名前は「スター」。最新型の消防車で、車体は大きく、コンピューターでコントロールされています。スピードも出るし、何よりピカピカでカッコいいのです。

この消防署には、もともと2台の消防車がありました。

小さくてパワーはないけれど小回りの利く「ちびた」と、昔からいるちょっとオンボロだけど丈夫な「がたお」です。

スターは、二人を見て「こんな変な仲間ばかりでがっかりだ。」と思いました。その後あいさつでこう言いました。

「僕がいれば、どんな火事もへっちゃらだ。二人に助けてもらわなくても大丈夫さ。」

- (2) ある日、町で火事がありました。急いで向かおうとする二人に、スターはこう言いました。

「お前たちが来ても邪魔になるだけだ。僕が行くからついてこないで。」

あっという間に、スターは一人で行ってしまいました。二人も後を追いましたが、到着する前に、スターが火を消していました。そして、自信たっぷり言いました。

「僕がいれば、何も問題ないさ。」

- (3) しばらくして、また火事の連絡が来ました。今度もスターは自分だけで行ってしまいました。

ところが、今度は町ではなく、山の奥の火事でした。スターは、車体が大きいので、狭い山道に入っていけず困っていました。助けを呼ぼうにも、最新のコンピューターは電波が届かず使えません。

すると・・・

- (4) 連絡と同時に向かっていた、ちびたとがたおが遅れて山道に到着しました。

「スター、もう大丈夫。僕たちが行くよ！」二人が言いました。

「僕は小さいから山道だって大丈夫！」と、ちびたは山道をどんどん登っていきました。

「わしも、これくらいのでこぼこ道は問題ない！」と、がたおもガタガタ登っていきました。

しばらくして、無事に火事を消し止めた二人が帰ってきました。

「ねえ、スター、ぼくたち、君みたいに大きくてカッコよくはないけれど、3人で力を合わせれば、きっとどんな火事でも大丈夫だね。」

ちびたが言いました。

スターは、「ありがとう。二人がいてくれてよかったよ。」心から言いました。

中学校第1学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 心身機能の発達と心の健康 「ストレス対処と心の健康」

2 単元について

(1) 単元観

中学生期は2度目の発育促進期であり、心身機能が急激に成長する。それに伴って精神も発達し、自己形成がなされる大切な時期である。そのため、心身機能の発達についての正しい知識をもち、様々な欲求やストレスに適切に対処しながら、心身の調和を保ち、心の健康を維持向上させながら生活する力が必要である。

そこで、本単元では、人間の身体と精神が、生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することを理解し、それに伴って起こる現象について考え、心の健康を保つ方法について知識を深めていくことを目標とする。

(2) 単元に関わる生徒の実態

本学級の生徒は、全体的に落ち着いた生活を送り、係活動や授業にも意欲的に取り組む姿勢が見られる。男女の仲も良く、話し合い活動にも活発に取り組むことができる。性についてふざけた反応を見せる生徒はほとんどいないが、身体の機能の発達については、考えが深められない状況が感じられる。

(3) 指導観

本単元では、思春期における心身の発育・発達のおくみについて十分な知識をもち、自他の健康・安全を確保していこうとする態度を育てたい。また、友達の意見を聞いたり学級全体で話し合ったりする中で、性差や個人差について望ましい認識をもって他と接していける態度を育てたい。そのために、ワークシートを活用したり、豊富なデータを提供したりすることで、生徒の関心を高める工夫をしていきたい。また、グループや仲間と調べたり話し合いをもったりして、お互いを高め合うことができるような場を工夫したい。

本時では、自分のストレスへの対処法を見つけることが大切であることを理解させた上で、友達の考えを参考にしながら、どんな対処方法があるかを考えさせたい。

3 単元の目標

- ・心身の機能の発達と心の健康について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- ・心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 【思考・判断】
- ・心身の機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟、精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。 【知識・理解】

4 小単元の評価規準（「ストレス対処と心の健康」）

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の 評価規準	・健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・健康に関する資料などで調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。	・心身機能の発達、精神機能の発達と自己形成、欲求不満やストレスへの対処と心の健康について理解している。
学習活動 に即した 評価規準	課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	心身機能の発達、精神機能の発達と自己形成、欲求不満やストレスへの対処と心の健康について言ったり、書き出したりしている。

5 指導と評価の計画

時	学習内容	観点別評価規準			
		ア 関心 意欲 態度	イ 思考 判断	ウ 知識 理解	評価規準と方法
1		省略			
2					
3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの適切な対処には、コミュニケーションの方法を身に付けること、適度な運動をすること、趣味をもつことなど自分自身でできることがあること。 ・自分に合った対処方法を身に付けることが大切であること。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスや欲求に適切に対処する方法について、友達の意見を聞き、自分の考えを発表することで理解を深め、ストレスの解消方法について考えている。 <p style="text-align: right;">（ワークシート・発言）</p>

6 人権教育上のねらい（普遍的な課題「共感と連帯感」）

自らの考えや気持ちを伝え合い、認め合うことの大切さを学び、自分自身を見つめ直ししていく中で自分らしさがつくられていくことを仲間と共感することができる。

7 人権教育上の視点

様々な考えを発表し合い、相手の考えの意図を理解し、互いの考え方のよさを認め合う態度を身に付けている。

（価値・態度）

8 本時の指導（本時 第3/3時）

（1）本時の目標

- ・ストレスや欲求に適切に対処する方法について、友達の意見を聞いたり、自分の考えを発表したりすることで理解を深め、自分自身のストレスの解消方法について考えることができる。
- 【思考・判断】

（2）学習過程

人権教育上の配慮

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<p>1 中学生の今、自分はどのようなストレスがあるか考えワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心のストレスについて ・体のストレスについて <p>2 班で自分の考えを発表する。</p> <p>3 本時の課題を確認する。</p>	<p>ワークシートに自分の考えたストレスを記入させる。</p> <p>グループ内で自分の考えを発表させる。</p>	
<p>自分のストレスはどのようにすれば解消できるか考えよう。</p>			
展開 30分	<p>4 自分のストレス解消方法について考え、ワークシートに記入する。</p> <p>5 ストレスの解消方法についてグループワークを行い、解消方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談する人について ・リラックス方法について <p>ストレスの解消方法について班で発表する。</p> <p>ストレスへの適切な対処には、コミュニケーションの方法を身に付けること、適度な運動をすること、趣味をもつことなど自分自身でできることがあること。</p> <p>6 サッカー日本代表長谷部選手『心を整える』という本から、長谷部選手のストレスの対処方法やその考え方と知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビも音楽も消して目を開けたまま、天井を見つめるようにして、息を整えながら全身の力を抜いていく。 ・本番前までなるべく試合のことを考えない。 	<p>自分のストレス解消法について、ワークシートに記入させる。</p> <p>ストレスの解消方法について班で発表させる。</p> <p>自分と異なる他者のさまざまな考え方を否定することなく、その考え方の意図は何かを理解するよう促す。（価値・態度）</p> <p>長谷部選手の写真を提示する。長谷部選手の本『心を整える』の前書きの文章から「心」「調整する」「自分を見つめる」という言葉をあてはめさせる。長谷部選手も行っている「いい眠り」のための対処方法から用意したストレス対処方法を実際に行って、感想をワークシートに記入させる。</p>	<p>ストレスや欲求に適切に対処する方法について、友達の意見を聞き、自分の考えを発表することで理解を深め、ストレスの解消方法について考えている状況をワークシート・発言で捉える。</p> <p>（思考・判断）</p>

	7 ストレスの対処法を体験する。 ・音楽 ・アロマテラピー ・呼吸法 ・耳栓をする。		
ま と め 10 分	8 本時の振り返りとして自分に ふさわしいストレス対処法を考 える。 自分に合った対処方法を身に付 けることが大切であること。	自分にふさわしいと思われるス トレス解決方法を選び、「そのよ いところ悪いところ」を記入し、 本時を振り返らせる。	

9 板書計画

<p>9 ストレス対処と心の健康</p> <p>ストレスとは 心と体に負担がかかり、そこにひずみが生じた状態</p> <p>Qあなたの感じるストレスは？ 部活 人間関係 勉強 家庭 学校生活</p> <p>Q自分でできるストレスの対処方法 友達と話す 音楽を聴く 運動をする DVDを視聴する</p>

中学校第2学年 道徳学習指導案

1 主題名 優れた伝統や文化の継承 [内容項目4-(9)]

2 資料名 「金閣再建 黄金天井に挑む」

(出典 「中学生の道徳2 かけがえのないきみだから」学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

中学生のこの時期は、自国への理解が深まり、文化や伝統に対しても関心をもつようになる。そこで、日本のよさや素晴らしさを改めて見つめ直させ、日本人としての誇りと自覚をもって国を愛する心を育てたい。それは、これからの国際社会を担う生徒に求められる重要な資質であると考え、自国への愛情を基盤に、国家の発展に尽くそうとする意欲を育みたい。

(2) 生徒の実態について

自分に自信をもっている生徒が少ない。そこで、日本の文化を通して懸命に仕事をする主人公の生き方に興味・関心をもたせ、他者を尊重する気持ちを養いたい。同時に、自分たちも日頃の係や委員会の仕事、勉強などに自覚と責任をもって取り組むことは誇らしいことであると伝え、自尊感情も育みたい。また、学校の文化についても考えさせ、体育祭のふり返りや間近に迫った合唱コンクールへの取組についても言及し、一人一人の意識を高めていきたい。

(3) 資料について

本資料には、日本の宝である金閣を再建しようとする人々の姿が簡明に描かれている。金閣再建にかける矢口一夫氏の熱い思いを通して、世界に誇る日本の文化財を守り抜こうとする意志の根底に流れるものを捉え、日本人としての自覚を高めたい。

4 本時のねらい

日本の文化や主人公の生き方に触れ、受け継がれてきた伝統や文化を大切にしていこうとする態度を育てる。

5 人権教育上のねらい(普遍的な課題「人間の尊厳・価値の尊重」)

人々の文化や生き方に興味・関心を寄せ、自他を尊重する精神を養う。

6 人権教育上の視点

(1) 他者の文化や生き方に豊かな感性や想像力を働かせ、共感的に理解することができる。(技能)

(2) 人間としての尊厳や自尊感情を大切にしようとする態度を身に付けている。(価値・態度)

7 本時の学習指導過程

人権教育上の配慮

段階	学習活動 主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 金閣について知っていることを質問し、確認し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で学習した事柄を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足利義満の写真を提示し、金閣について知っていることを確認させる。
展開	<p>2 資料「金閣再建黄金天井に挑む」を読んで話し合う。</p> <p>発問： 「金閣をよみがえらせてほしい」と言われた時、矢口さんはどんな気持ちだったろうか。</p> <p>修復に挑む矢口さんや柳生さんは、どんな困難にぶつかったか。</p> <p>矢口さん、柳生さんが大変な修復をやり遂げることができたのはどんな思いがあったからだろうか。</p> <p>再建された金閣を見た時の矢口さんたちは、どんなことを考えただろうか。</p> <p>5 受け継がれてきた伝統や文化について、班で話し合い、意見をまとめる。</p> <p>6 班ごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業内容を想像しながら聞く。 ・やってみたいが、自信はない。 ・誰かが再建しなくては …。 ・金箔の厚さや漆の質。 ・床の木材。 ・押しくせ。 ・亡くなった住職の思いに応えたい。 ・日本が世界に誇る文化財を必ずよみがえらせたい。 ・やったぞ。 ・みんなで再建できた達成感を味わった。 ・ワークシートを見せ合い、共有する。 ・発表者が班で考えた考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の資料を通じて何を考え、何を伝えたいか考えて聞くようにする。 ・道徳の時間は正解、不正解はないことを強調し、必ず意見を書くように促す。 登場人物の生き方に関心をもたせ、思いに触れ、共感することで、他者を尊重する気持ちをもたせるようにする。（技能） ・自分の考えを伝えるとともに、班員の意見を尊重させるようにする。 ・各班の意見にしっかり耳を傾けさせる。
終末	<p>7 自分たちの身近な文化である本校の文化について話し合う。</p> <p>発問： 学校の文化って何だろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩が築いてきた伝統。 ・きまり。ルール。 	

終 末	学校の文化を守るため、また発展させるために、私たちがやらなくてはいけないことは何だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強や部活、係や委員会の仕事、学校行事などを頑張ること。 ・仲良く過ごすこと ・協力し合うこと ・高め合うこと ・ルールやきまりをしっかりと守ること。 	自他のよさを認め、大切にしようとする態度を身に付けるために、やらなくてはいけないことについて、今までの生活の中でしっかり取り組んできたことを具体的に教師から伝える。 (価値・態度)
	<p>8 各発問について、班で話し合う。</p> <p>9 数名が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを見せ合い、共有する。 ・自分の考えや班で共有した意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えるとともに、班員の意見を尊重させるようにする。 ・発表にしっかり耳を傾けさせる。

8 評価の観点

- ・日本の文化や主人公の生き方に触れ、受け継がれてきた伝統や文化を大切にしていこうとする意欲が高まったか。

中学校第3学年 英語科学習指導案

- 1 単元名 Program7 “What Is The Most Important Thing To You?”
SUNSHINE ENGLISH COURSE (開隆堂)

2 単元設定の理由

(1) 教材観

この単元では、世界中でボランティア活動を行って途上国を支援し、途上国のために働く意欲のある人材育成への取組を続ける国際協力師、山本敏晴さんの活動について紹介されている。その活動の一つとして「お絵かきイベント」が取り上げられている。途上国の子供たちが描いた絵には、自国の環境や平和に対する切実な願いが込められている。自分の国に夢や希望をもって生きる子どもたちへの絵に込められた力強いメッセージから、世界の同世代の子供たちの考えに触れ、世界への興味・関心を高めつつ国際理解への第一歩を踏み出せる内容となっている。この単元を通し、アフリカや南太平洋の途上国の現状を理解し、本当の国際協力とは何か、私たち一人一人に何ができるのかを考えさせたい。そして、既習の言語材料や関係代名詞を用いて、自分の考えを表現できる力を養いたい。

(2) 生徒観

積極的に挙手や発言をする生徒が多い。生徒同士の間関係も良好であり、グループ活動やペアワークに積極的に参加する。そのため、授業の帯活動として行う「コミュニケーションタイム」では、設定した目標人数以上の生徒と会話活動に取り組める生徒が多い。また、分からない箇所をそのままにせず授業中に解決しようとする意識が高く、積極的に質問をしたり、互いに教え合ったりする雰囲気がある。学習意欲が高く、ノートの自己表現英作文では、課題としている5文以上を書いて提出できる生徒も多い。

一方、基礎学力の定着が不十分な生徒、単語や英文を書く作業になると苦手意識をもつ生徒もいる。分かりやすいワークシートの工夫や板書の工夫、繰り返し指導を行うとともに、グループ活動やペアワークを取り入れ、自分のことや身の回りのことを表現する力を育成したい。

(3) 指導観

本単元で扱う言語材料は、関係代名詞(主格)の who、which、that である。導入において、先行詞によって使われる関係代名詞が変わることに気付かせ、「先行詞+関係代名詞+動詞」の語順に注意を払わせたい。新出文型を含む基本文を正しく音読したり、身近な人物等を用いたパターン・プラクティスを繰り返し行い、身の回りの人物等について詳しく説明したり自分の考えを伝えたりできる力を養いたい。

また、前単元で学習した現在分詞・過去分詞による後置修飾と比較しながら、文の構造や意味や働きを理解させたい。

3 単元の目標

- (1) 新出文型を理解し、人や物について詳しく説明することができる。(言語文化・表現)
- (2) 本文全体の内容をつかみ、主人公が国際協力について説明している内容を理解する。
(理解・表現)
- (3) 本文の新出単語を正確に発音し、正しいイントネーションでリズム良く音読することができる。
(関心・表現)

4 単元の計画と評価計画

時	学習活動 ・ 学習内容	評価規準			
		言語活動：読むこと(R)、書くこと(W)、聞くこと(L)、話すこと(S)			
		コミュニケーション への関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について の知識・理解
1 (本時)	・関係代名詞主格whoの導入と自己表現活動	・教師の説明に興味深く聞いている。(L) ・コミュニケーション活動に積極的に参加している。(L/S)	・英文をリズムよく読む。(R) ・単語を組み立てて英文を作る。(L/W/R)	・読まれる内容を聞き取ろうとしている。(L)	・whoを用いた関係代名詞の構造を正しく理解し、運用することができる。(W)
2	§ 1 の内容理解	・教師の説明に興味深く聞いている。(L) ・大きな声で発音しようとしている。(S) ・プリントにまとめることができる。(W)	・正しい発音とイントネーションで本文を読むことができる。(R/L)	・英文の内容を理解できる。(L) ・質問の内容を理解できる。(L)	・whoを用いた関係代名詞を正しく理解し、英文や語句の意味が分かる。(W)
3	・関係代名詞主格whichの導入と自己表現活動	・教師の説明に興味深く聞いている。(L) ・コミュニケーション活動に積極的に参加している。(L/S)	・英文をリズムよく読む。(R) ・単語を組み立てて英文を作る。(L/W/R)	・読まれる内容を聞き取ろうとしている。(L)	・whichを用いた関係代名詞の構造を正しく理解し、運用することができる。(W)
4	§ 2 の内容理解	・教師の説明に興味深く聞いている。(L) ・大きな声で発音しようとしている。(S) ・プリントにまとめることができる。(W)	・正しい発音とイントネーションで本文を読むことができる。(R/L)	・英文の内容を理解できる。(L) ・質問の内容を理解できる。(L)	・whichを用いた関係代名詞を正しく理解し、英文や語句の意味が分かる。(W)

5	・関係代名詞主格thatの導入と自己表現活動	・教師の説明に興味深く聞いている。(L) ・コミュニケーション活動に積極的に参加している。(L/S)	・英文をリズムよく読む。(R) ・単語を組み立てて英文を作る。(L/W/R)	・読まれる内容を聞き取ろうとしている。(L)	・thatを用いた関係代名詞の構造を正しく理解し、運用することができる。(W)
6	§ 3の内容理解	・教師の説明に興味深く聞いている。(L) ・大きな声で発音しようとしている。(S) ・プリントにまとめることができる。(W)	・正しい発音とイントネーションで本文を読むことができる。(R/L)	・英文の内容を理解できる。(L) ・質問の内容を理解できる。(L)	・thatを用いた関係代名詞を正しく理解し、英文や語句の意味が分かる。(W)

5 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

他者との学び合いや対話を通して、自分の思いや考えを適切に伝え合うことよさに気付き、人間関係づくりの基礎を身に付ける。

6 人権教育上の視点

○互いに伝え合い、分かり合うためのコミュニケーションの能力を高める。【技能】

7 本時の学習と指導

(1) 本時の目標

ア 関係代名詞主格 who の用法を正しく理解し、運用することができる。(言語)

イ 学んだ表現を用いて積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

(2) 展開

人権教育上の配慮

過程	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 アクティブ・ラーニングの視点	評価の規準 観点
導入 7分	1. Greetings Good morning. How are you today?	・互いに英語であいさつを交わすことで授業の雰囲気を作る。	積極的に発声している。 (S、L)関・理・表
	2. Small Talk	・教師の話す内容を集中して聞かせる。	
	3. Communication Time	・会話活動によって楽しんで学習できる雰囲気づくりをする。	意欲的に取り組んでいる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・例文の表示をする。 ・シートに記入させる。 <p>時間内で、なるべく多くの生徒に質問をするよう促す。</p> <p>双方向のやりとりとなるよう、相手の意見に対しあいづちを打つなどさせる。</p>	(S、L) 関・理・表
<p>展開 40分</p>	<p>1. Oral Introduction</p> <p>2. Pattern Practice</p> <p>3. Interview Game “Find someone who~?”</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ワークシートの配布 2) ゲームのやり方を説明 3) モデル会話の練習(全体) 4) インタビューゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・隣の人からはじめ、インタビューの結果をワークシートに記入 5) インタビューの結果を英文でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとJETの会話から、学習のポイントを把握させる。 ・生徒の興味関心を高め、理解しやすくするため電子黒板を利用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>J : (電子黒板を見ながら) Who's that? A : She's an ice skater who won a medal at the Olympics. J : Oh wow! What about him? A : He's a ski racer who won a medal at the Olympics. J : Oh, I see. A : I want to be an Olympic athlete in the future, too.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・文型練習を繰り返し行い、基本文の定着を図る。 電子黒板に表示する文字を徐々に少なくする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A : Excuse me, I have a question. Do you have any friends who live in foreign countries? B : Yes, I do. / No, I don't. A : (Really? / Me too. / Wow!)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない生徒には個別対応する。 ・積極的にインタビューに参加できない生徒には声かけするなどの支援を行う。 <p>相手の意見に対しあいづちを打つなどして、双方向のコミュニケーションとなるよう促す。【技能】</p> <p>インタビューで聞き取った内容についてメモをとることで、他者の意見に耳を傾けるよう促す。【技能】</p>	<p>集中してやりとりを聞き、内容を理解しようとしている。</p> <p>(L) 関・理</p> <p>英文をリズムよく読む。</p> <p>(S) 関・理・表</p> <p>積極的にゲームに参加している。</p> <p>(L、S) 関・理・表</p>

	<p>4. 新出文法のまとめ ワークシートを使用し、 関係代名詞”who”につい での理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを利用して、要点を整理させる。 ・まとめプリントの演習問題に取り組ませる。 終わった生徒は英作文に取り組ませる。 	<p>プリントの演習問題に正しく答えることができる。 (W)表・知</p>
<p>ま と め 3 分</p>	<p>5. 評価カードの記入 6. Greetings</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを書く。 ・本時のまとめについて、全体で共有化を図る。 ・大きな声であいさつをする。 	

(3) 板書計画

Wednesday, October 18th, 2017

Program 7-1 関係代名詞 who

She's an ice skater who won a medal in Olympics.

「彼女はオリンピックでメダルをとったスケート選手だ。」

基本文型 先行詞(人) + who + 動詞

どんな人かというと
(人を詳しく説明)

中学校特別支援学級 教科別の指導「数学」学習指導案

1 題材名 「身近な物の長さを比べてみよう」

2 題材設定の理由

(1) 学級及び生徒の実態

本校の知的障害特別支援学級の在籍生徒数は3年生男子1名、1年生女子2名の合計3名である。特別支援学級には生徒数が少ないこともあり、学校生活の中での生徒間のコミュニケーションが少なく、休み時間はそれぞれが自分のやりたいことをしている事が多い。人間関係の形成が苦手であり、コミュニケーション能力を身に付けることに課題がある。数学の時間は個々の生徒の教育的ニーズに合わせた授業を行っている。

(2) 題材について

1学期での体育祭では3名全員が交流学級と一緒に競技に参加することができた。2学期では、学校祭で交流学級と一緒に舞台上上がることがあるため、集団の中で一緒に過ごすために必要なコミュニケーション能力を高めていきたい。そこで、3名が共通して取り組みやすい長さの比べ方についてとりあげ、自分の気づきや考えを発表し合い、新たな考え方や視点を知ることができ、互いの考え方を認め合える学習を展開していく。

(3) 指導・支援について

本題材では、生徒自身が自信をもって行動がとれるようになり、将来社会人として歩んでいけるように適切な支援をしたい。特にコミュニケーション能力を高めるために必要な言葉づかいにおいて、生徒同士で話す場合と教師や大人と会話する場合の言葉づかいに気を付けるように指導し、教師自身が話をするときはやさしく、丁寧な言葉をつかい、模範を示す。話しかけられた場合は必ず返事やうなずきをするように支援する。さらに、1対1で会話をするときには、相手の鼻の近くを見るように心がける支援をする。

3 人権教育上のねらい(普遍的な課題「コミュニケーション能力」)

他者との学び合いや対話を通して、自分の思いや考えを適切に伝え合うことの大切さに気づき、人間関係づくりの基礎を身に付ける。

4 人権教育上の視点

(1) 「考える」、「話す」、「聞く」ことが、他者とのコミュニケーションの基礎であることを理解している。【知識】

(2) 互いに伝え合い、分かり合うためのコミュニケーションの能力を高める。【技能】

5 わかりやすさの工夫

1	環境整備	前の黒板のまわりには必要最低限の掲示物にとどめる。
2	板書の仕方	大きく丁寧に字を書き、見やすくする。時間の流れを示す。
3	ノート指導	課題に合った罫線やマス目のあるプリントを用意し、書きやすくする。
4	発問の仕方	指示を明確に行い、混乱しないように一つずつ丁寧に提示する。

6 題材の目標

- (1) 「長い」、「短い」の言葉の意味と、長さの比べ方が分かる。
- (2) 長さを比べる方法を考えて身近な物の長さを比べ、長短の理由を言うことができる。
- (3) 学校、家庭等の身近な物の長さに興味をもつことができる。

7 指導計画

・言語コミュニケーション能力を高める。・対人関係の形成や拡大ができる。
 ・環境認知能力を高める。・生活スキルを向上できる。 年間を通して取り組む。

過程	学習内容	時間
1	長さが分かると生活に役立つことを知る。	1
2 本時	端に注目する必要があることを知る。	1
3	端をそろえなくてはならないことを知る。	1
4	向きをそろえなくてはならないことを知る。	1
5	まっすぐにしなくてはならないことを知る。	1
6	身近な物の長さを直接比較する。	1
7	机の縦横の長さテープで計りとして比べる。	1
8	学校や家庭内のもので長い、短いものを探す。	1

8 本時の学習

(1) 共通目標

- ・「端をそろえ、向きをそろえ、まっすぐにして」長さを比べることが分かり、机の縁などにそろえて対象物を並べ、長さを比べることができる。 【知識・技能】

(2) 生徒の実態及び目標

No.	学年	名前	本時に関する実態及び目標
1			内容省略
2			
3			

(3) 個別の指導内容及び目標

No.	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1			内容省略	
2				
3				

(4) 展開

人権教育上の配慮

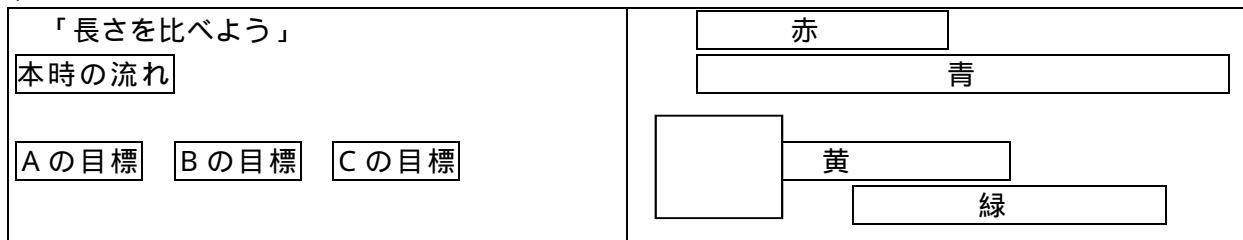
時間	学習活動	生徒の活動 予想される生徒の反応 指導者の主な 指示・発語等 支援の手立て *評価の観点			資料等
		A	B	C	
1分	1 はじめの挨拶をする。	挨拶をする。	挨拶をする。	挨拶をする。	
		はっきりした声での挨拶を促す。			
		姿勢を正しくして、みんなで一緒に挨拶ができるようにする。 T2	手本を見せ、模倣を促し、挨拶ができるようにする。 T2	手本を見せ、模倣を促し、挨拶ができるようにする。 T2	
導入 4分	2 本時の学習内容と目標を聞く。 3 本時の学習の流れを知る。	本時の学習内容を説明、目標を意識させる。			
		本時の授業の流れを知らせ、学習の見通しをもたせる。			
		教師の話をよく聞いている。	注意がそれ、他に 関心を示している。	進んで取り組もうとする意欲を示す。	
展開 10分	4 差の大きい2つのテープのうち、どちらが長い か考える。 テープを動かして位置が変わっても、長い方は変わらないことを知る。	赤・青テープは、端をそろえなくても長さが分かるほど差があるものを提示する。	どちらが長い か予想する。 BCの意見を聞く。	どちらが長い か予想する。 声に出して長い方に指を指す。	黒板 赤テープ 青テープ
		順を追って問いかけ、自分の考えをもって話すと相手に伝わることを助言する。 T1 【知識】	相手を見て話を聞くよう伝え、話を最後まで聞くことで、相手が喜ぶことを助言する。 T2 【知識】	相手を見て話を聞くよう伝え、話を最後まで聞くことで、相手が喜ぶことを助言する。 T2 【知識】	
15分	5 片方の端が封筒で隠された2本のテープ(緑・黄)を動かして、どちらが長い か考える。	直感的な解答を認めて、正解を誉めるようにする。			
		黄テープを封筒から伸ばしたり、緑テープを伸ばしたりしながら、質問をして長く見えるテープが定まらないことを実感できるようにする。			緑テープ 黄テープ テープを覆う封筒

15分	6 「長い方」が変わってしま うことにおか しいと気づく。	気が付いたことを数多く発表できるような雰囲気 を作る。		
		○どちらが長い か予想する。 どちらが長い か尋ねること で、自分の考 えをもってか ら、伝えるこ とができるよ う促す。 T1 【技能】	○どちらが長い か予想し、発表 する。 相手の顔を見 て話を聞くよ う伝え、最後 まで聞くこと ができるよう 促す。 T2 【技能】	○どちらが長い か予想し、発表 する。 相手の顔を見 て話を聞くよ う伝え、最後 まで聞くこと ができるよう 促す。 T2 【技能】
まとめ 4分	8 まとめをす る。	赤と青テープの状況を板書で横に並べ、どこが 違うか指さしや言葉で答えられるようにする。		
		○B Cの意見を 聞いて、どこが 違うか考え、指 摘する。(*) どこが違うか 見つけるよう に支援する。T2	○A Cの意見を 聞いて、どこが 違うか考え、発 表する。(*) どこが違うか 見つけるよう に支援する。T2	○A Bの意見を 聞いて、どこが 違うか考え、発 表する。(*) どこが違うか 見つけるよう に支援する。T2
1分	9 終わりの挨拶をする。	今日の目標が達成できたかを確認し、振り返 りをする。		
		自己評価をす る。 頑張っ て自分 の考え を伝え たこと を称賛 する。 T1 T2	自己評価をす る。 頑張っ て相手 の話 を聞け たこと を称賛 する。 T1 T2	自己評価をす る。 頑張っ て相手 の話 を聞け たこと を称賛 する。 T1 T2
1分	9 終わりの挨拶をする。	はっきりした声での挨拶を促す。		
		姿勢を正しく して、みんな で一緒 に挨拶 がで きるよ うに する。 T2	手本を見せ、模 倣を促 し、挨拶 がで きるよ うに する。 T2	手本を見せ、模 倣を促 し、挨拶 がで きるよ うに する。 T2

(5) 生徒数

3年組 1名、1年組 2名

(6) 板書計画



9 評価

(1) 共通目標に係る評価

・ 比べ方を理解し、対象物の長さを比べることができたか。

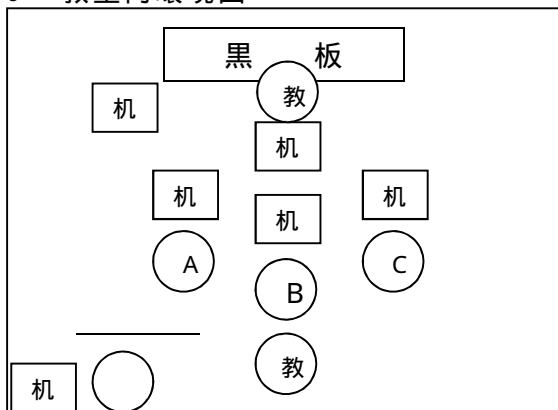
(2) 個人目標に係る評価

A ... 相手に伝わるように、自分の考えを言葉に出して発表できたか。

B ... 相手の顔を見て、他の意見を聞くことができたか。

C ... 相手の顔を見て、他の意見を聞くことができたか。

10 教室内環境図



高等学校第2学年 公民科学習指導案

1 単元名 科学技術の発達と私たちの生命

2 単元設定の理由

科学の進歩は私たちの暮らしを豊かなものにする一方、私たちに様々な倫理的課題も投げかける。脳死判定と臓器移植の是非について言えば、承諾することで多くの命が救われる反面、家族の死を決断しなければならない葛藤とも向き合うことになる。こうした葛藤は、どんな人にも予告なく訪れる可能性があり、私たちは生命の価値や人間の尊厳について日頃から考えておく必要がある。

これらを考えさせるにあたっては、第一に、医療関係者や本人、家族など複数の視点に立たせることで、多面的・多角的な視点から考えさせることを重視したい。第二に、先哲の思想についての理解を深めることで、私たちの生命観・人間観が何を起源にしているかを考察させたい。そして、前述の二点を基礎として、現代社会を生きる自らの在り方・生き方について思索を深めさせたい。

3 人権教育上のねらい（普遍的な課題「生命尊重」）

科学の進歩によって生じる、様々な倫理的課題について多面的・多角的な視点から考察させる。そのことを通じ、私たちの生命観の起源について知識を深め、生命が互いに支え合っていることへの理解や生命尊重の精神を持ちつつ倫理的課題に向き合う態度を養う。

4 人権教育上の視点

- (1) 脳死判定などの生命倫理の課題の背景に、西洋的な考え方があることを理解する。(知識)
- (2) 課題を自らにも起こり得る問題として捉えた上で、生命を尊重することの意味を問い、主体的に価値観を形成する。(価値・態度)
- (3) 様々な立場の考えを受容しながら考えを広げ、自らの意見を積極的に表現できる。(技能)

5 単元の目標

クローン技術、人工体外受精、脳死と臓器移植、尊厳死と終末医療など生命倫理の問題について考えることを通じて、生命の価値や人間の尊厳について考察するための多面的・多角的な視点を獲得する。また、自分とは異なる他者の様々な意見を受容し、自分の意見を構築しようとする態度を養う。

6 単元の評価基準

- (1) 生命倫理の課題について自分の意見を持ち、また他者の意見を受容しようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 生命倫理の課題について、様々な当事者や先哲の思想など、多面的な視点から考察している。(思考・判断・表現)

(3) 科学技術の発達や医療に関する図版・写真などの資料を適切に用い、説明できる。

(資料活用の技能)

(4) 生命倫理の課題、デカルトやベーコンの思想などについて理解を深め、知識を身に付けている。

(知識・理解)

7 本時の授業 (1 / 2 時間)

(1) ねらい

脳死判定と臓器移植の是非について、自分の意見をまとめさせるとともに、様々な他者の意見に関心をもたせる。その際、デカルトの思想を手掛かりとすることで、科学技術の進歩と同時に西洋の二元論的な考え方の流入が問題の背景にあることを理解させ、広い視野から人間の尊厳について考える態度を養う。

(2) 展開

人権教育上の配慮

段階	学習内容・活動	教師の指導・指導上の留意点 評価規準
導入	ワークシートのTVドキュメンタリーの内容を読む。 脳死は人の死か 脳死移植が許される思想的な背景は何か	・教師が読んでもよい。 ・本時の課題の提示
		将来の自分にも起こり得る問題であることを指摘しておく。(価値・態度)
展開	AかBか自分の意見を選び、付箋に理由とともに記入する。 A 臓器提供を承諾する B 拒否して最期を看取る 教室内で、自分と同じ意見の人、違う意見の人を一人ずつ探し、意見を伝え合う(付箋を見せ合う)。 A派、B派それぞれの意見を発表する。 予想される解答 A派 誰かの命を救うことができる意識が死んでいれば死と同じ経済的負担もかかる B派 家族が死を決めるのは重い絶対に蘇生しないと云えるか臓器を物のように扱うのは嫌	・重い内容であるので、書ける範囲で書けばよい。また、決めきれない場合は無理に決めさせず、悩んだ理由を書くのもよいことを伝えておく。 付箋を見せるだけでなく声に出して読ませ、考えを表明するよう指示する。(技能) ・机間巡視しつつ、多様な理由が出るよう、生徒の意見を把握しておく。 多様な意見が聞けるように留意して発表者を指名する。また、意見は板書しておき、様々な立場があることを可視化しておく。(技能) 自分の意見を発言しているか、他者の意見を積極的に受容しようとしているか。(関)

<p>展開</p>	<p>臓器移植に関する悩みがなぜ起こったのかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳死 = "人間の死" ・家族の同意で、提供可能に ・年齢制限なし <p>「脳死 = 人間の死」といった考え方の起源がどこにあるのかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デカルトの思想 「我思う、ゆえに我あり」 演繹法 <p>デカルトの思想をもとに、脳死について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間は脳死状態になると死と判定される」と「先生は人間である」ということから、「先生も脳死状態になると死と判定される」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臓器移植法の改正について説明する。 <p>発問「臓器を物と捉えるような考え方の起源はどこにあるのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デカルトの思想について解説する。 臓器移植法の内容、デカルトの思想について理解をしているか。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークで他者の意見も聞き考えを深めるようにする。 <p>発問「人間は脳死で死ぬ、先生は人間、この二つから、何が分かるか？」</p> <p>発問「我思う、の「我」って体のどこにある？」</p> <p>発問「考える脳が死んだら、残った臓器とは何なのか？」</p> <p>精神と肉体を分けて考える人間観の起源がデカルトにあることを理解させるために、適宜発問を織り交ぜる。(知識)</p>
<p>まとめ</p>	<p>○デカルトなら脳死からの臓器提供にどんな答えを出すか、ワークシートに簡潔にまとめる。</p> <p>ノートの末尾に、改めて脳死からの臓器提供に対する自分の意見を書く。</p>	<p>学習の結果、意見や理由が変わってもよいことを伝え、生命について主体的に意見を語るよう声掛けする。(価値・態度)</p> <p>本時の学習内容や、多面的な視点を踏まえて、自分の考えを表現している。(思)</p>

(3) 板書案

<p>臓器移植と脳死</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009年：臓器移植法改正 <p> { <ul style="list-style-type: none"> 脳死 = "人の死" 家族の同意で、提供可能に 年齢制限なし </p>	<p>デカルト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑わしいものは、全て疑う <p> ・「<u>我思う、ゆえに我あり</u>」 ・<u>演繹法</u> 例 人間は脳死で死ぬ } 先生も脳死で死ぬ 先生は人間 </p>
---	--

ワークシート 「家族が脳死になったとき」

高度な救急医療で知られる札幌市内の病院です。この日も膜下出血で入院していた 40 代の男性患者の家族を主治医が集めました。(中略)患者の脳は、出血によって腫れ上がり本来の機能を失っていました。

「今日の検査の結果として、脳死の状態だろうと考えています」
 医師は、患者が脳死である可能性が高いことを説明し、回復に向けた治療は難しいと告げました。さらに、続けてもう一つの重要な話を切り出しました。

脳死とは
・ 脳幹を含む脳全体の機能が永久に不可逆的に停止
・ 自発呼吸ができず、人工呼吸器で循環機能を保っている
・ 現在の医療では助からないとされている

「この先何ができるかと考えたときに、その1つとしては臓器提供があります」

患者の臓器を別の患者に提供するという選択肢があることを伝えるオプション提示。通常、脳死になった人は数日から 10 日ほどで亡くなることが多いため家族は、限られた時間の中で提供するかどうかを決断しなければなりません。(中略)

家族が臓器提供の検討を望んだ場合、臓器移植コーディネーターという移植の専門家が詳しい説明をします。家族が、正式に提供を承諾した段階で脳死判定が 2 回にわたって行われ法的に死亡が確定します。その上で、臓器の摘出が行われることになります。(中略)

「脳死判定という決められた検査があるんですけども、2 回目の検査が終わった時間が、ご本人様の死亡の時刻になります」

このとき男性の妻が訴えたのは、臓器提供を承諾することは夫の死の瞬間を自分たちが決めることにつながるという違和感でした。

「脳死判定して死亡時間が決まるじゃないですか(その後本人が)頑張っても死亡時間は変わらないんですか？」

「変わらないです」

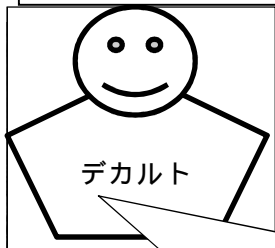
このまま臓器提供を承諾するのか。それとも、夫の命が自然に消えゆくまで、時間が許す限り看取る道を選ぶのか。

妻は迷いました。引用 2012.2.10 NHK HP「クローズアップ現代+」

現在、医療現場ではドナーは全く足りていない。臓器提供が増えれば多くの命が助かるのは事実だろう。だが、脳死の瞬間は突然やってくることもある。家族が可否を選択する場合は、重い決断になる。

この状況であなたなら、A臓器提供を承諾するか、B拒否して(いつ来るか分からない?)最期を看取るか。付箋に考えを書いてみよう。

先生



ルネ・デカルト(仏・1596～1650)
 ……大陸合理論の祖
 主著 : 『方法序説』・『省察』など
 時代 : 宗教戦争、科学革命が進行

私は、脳死からの臓器提供には、_____です。
 なぜならば、_____。

人権教育学習指導案集

～平成29年度の実践～

発行年月 平成30年3月

発行 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課
さいたま市浦和区高砂3-15-1

連絡先 TEL 048-830-6892

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f2218/>



埼玉県のマスコット コバトンとさいたまっち